

# CSR REPORT 2015

株式会社 北洋銀行 経営企画部  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3丁目7番地  
電話 011-261-1311 (代表)



くわしくは  <http://www.hokuyobank.co.jp/about/csr/>



この印刷物は、震災復興型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO<sub>2</sub>削減事業ならびに東北経済復興を応援しております。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## 北洋銀行のCSR 2015

環境・社会・経営レポート



会長メッセージ

# 北海道の持続的な発展に 貢献するために。



皆さまには、日頃より北洋銀行をお引き立ていただくと共に、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当行は「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」を経営理念に掲げ、北海道と共に発展していくことを目指しています。CSR(企業の社会的責任)への取り組みにおいても「全てのステークホルダーの持続的な発展に資する行動を全行で実践」することを基本方針としています。

北海道は豊かな自然に恵まれた、かけがえのない地元です。このすばらしい北海道を未来へ引継ぎ、健康な暮らしや次世代を担う子どもたちの育成に貢献すべく、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」をCSRの重点取組テーマとしています。平成26年4月よりスタートした中期経営計画【挑戦】においても、CSR経営の実践を基本方針の一つとして推し進めています。

本CSRレポートでは、こうした当行の様々な取り組みをわかりやすくご紹介していますので、皆さまのご参考になれば幸いです。

当行は、これからも北海道の持続的な発展に貢献するために、CSRを着実に果たしていきますので、引き続きご愛顧・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社 北洋銀行

取締役会長 **横内 龍三**

## Contents

会長メッセージ	P 1
私たちが考えるCSRとは	P 3
<b>特集 1</b> 店舗での取り組み	<b>P 5</b>
<b>特集 2</b> 地域への取り組み	<b>P 9</b>
<b>Environment</b>	
<b>環境保全への取り組み</b>	<b>P15</b>
当行自身の環境負荷低減への取り組み	P19
ビジネスを通じた取り組み	P21
<b>Social</b>	
<b>医療福祉への取り組み</b>	<b>P23</b>
<b>教育文化への取り組み</b>	<b>P27</b>
<b>Governance</b>	
<b>経営について</b>	<b>P30</b>
積極的なIR活動を通じた株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築	P32
コーポレートガバナンスの強化に向けて	P33
危機管理体制と緊急時業務継続計画に関して	P33
コンプライアンスと顧客保護等の態勢	P34
リスク管理	P35
CSR REPORT 2015に対する第三者意見	P36

### 編集方針

札幌北洋グループが推進しているCSR活動について、CSRに対する考え方や推進体制・取り組み状況等を、環境・社会・経営の切り口で重点的に取り組んでいるテーマを中心にご紹介し、ステークホルダーの皆さまに当グループに対するご理解を更に深めていただくことを目的としています。

### 報告対象の範囲と期間

特に記載のない限り、株式会社北洋銀行、株式会社札幌北洋リース、株式会社札幌北洋カード、ノースパシフィック株式会社、北洋ビジネスサービス株式会社の5社を対象としています。  
また、対象期間は、特に記載のない限り、平成27年3月までの取り組み内容を記載しています。



# 私たちが考えるCSRとは

## 札幌北洋グループにとっての企業の社会的責任

私たち札幌北洋グループの将来と地域の未来に寄与するため、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」を重点取組テーマとしてご期待に応えるまちづくりをサポートしていきます。



### 札幌北洋グループ経営理念

お取引先に良質なサービスを提供し、お客さまと共に発展する。  
企業価値の増大を図り、株主と市場から高い信頼を得る。  
職員がその能力を十分に発揮できる働きがいのある職場をつくる。

### 北洋銀行経営理念

北海道の洋々たる発展の礎となる銀行

## 札幌北洋グループのステークホルダー

ステークホルダーとは、企業の利害関係者のことです。ただし、金銭的な利害関係のある取引先(お客さま)や株主さまだけを指すのではなく、地域社会、環境、職員等、企業活動を行う上で関わる全ての主体を含みます。



## CSRの歩み

- 昭和59年(1984) 「インフォメーションバザール」開始
- 平成元年(1989) 「北洋銀行ドリーム基金」設立
- 平成2年(1990) 「北海道骨髄バンク事務局」を行内に設置
- 平成16年(2004) 「環境・地域貢献委員会」設置  
「環境・地域貢献委員会方針」制定
- 平成17年(2005) 上海事務所設置  
大連事務所設置

- 平成18年(2006) 企業内託児所「ほっくーとなかまたち」開設
- 平成19年(2007) 「ものづくり・テクノフェア」開始  
次世代認定マーク「くるみん」取得
- 平成20年(2008) 「札幌北洋グループ環境方針」制定  
「札幌エコ・メンバー(ランク3)」認定
- 平成21年(2009) CS向上のための「Changing!運動」開始  
「女性活躍支援室」設置  
「北海道グリーン・ビズ(ランク3)」認定

- 平成22年(2010) 「北洋エコボンド」取り扱い開始  
「ほっくーの森」開始  
専担部署「医療・福祉支援室」を設置  
「ほっくー基金」設立  
「ほっくー定期預金」取り扱い開始
- 平成23年(2011) 道内3医大との包括連携協定締結  
「市民医療セミナー」開始
- 平成24年(2012) 専担部署「CSR推進室」を設置  
「北洋銀行presentsクラシックコンサート」開始

- 平成25年(2013) 「中学生作文コンクール」開始  
「環境・地域貢献委員会」を「CSR委員会」に改称
- 平成26年(2014) CSRに関連した方針を一本化し、「CSR基本方針」制定  
「飛翔NEO」取り扱い開始  
全店一斉ごみ拾いを実施  
バンコク事務所設置
- 平成27年(2015) 「サービス・ケア・アテンダント」の支店配置を開始  
「第6回さっぽろ環境賞(生物多様性保全部門)」優秀賞受賞  
「地方創生推進室」設置

### CSR基本方針

札幌北洋グループの「経営理念」に基づき、当グループを支えていただいている全てのステークホルダーの持続的発展に資する行動を全行で実践し、金融商品・サービス・情報等の提供、支援活動に努めます。

## 3つの大切なこと

### CSRにおける重点取組テーマ

地域金融機関に求められる役割・機能等を踏まえ、「社会的課題としての重要度」、「地域の持続的発展における重要度」、「当グループの持続的発展における重要度」の3点から検討し、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」の3テーマとしています。



### P23 医療福祉

北海道では、医師不足等が社会問題となっている地域もあります。札幌北洋グループが有する金融機能やネットワークを活用しながら医療福祉に取り組んでいます。



### P15 環境保全

北海道の持続的発展に必要な不可欠な「環境の維持・保全」。金融グループとして、「当行自身の環境負荷低減への取り組み」と「ビジネスを通じた取り組み」の2分野で推進しています。



### P27 教育文化

次世代を担う子どもたちの育成と地域の活性化を目指し、文化的事業、金融教育や職業体験イベントを行っています。



特集 1

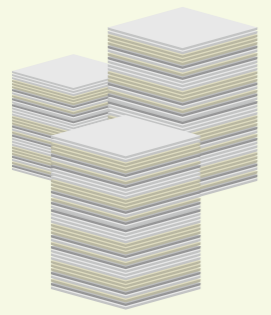
店舗での取り組み

# いつもお客さまの側にあるCSR

環境改善とともに、職員それぞれが想いを込めて様々なサービスを提供できるように取り組んでいます。

## 紙使用量の削減

### Paperless



当行では、行内イントラネットの利用により通達文書や還元資料などのペーパーレス化を進めています。  
また、お客さまがATMをご利用される際には、お取引明細の発行・不発行が選択できるようにしています。

## 店内照明のLED化



60%削減

省エネ効果を上げるため、点灯時間が長いATMコーナー、店舗ロビー、事務室等を優先して、順次照明のLED化対応を進めています。  
設置場所・条件により差はありますが、業者の試算では60%程度の電力量削減効果があるとされており、導入した施設では実際に効果が認められています。

## CSRとは?

Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)  
企業が社会や地球環境に対して責任を果たし、社会、地域等と共に発展していく取り組みのこと。

## 省電力型ATM導入

当行では、平成26年より老朽化したATMの入れ替え機種として、日立製の省電力型新型ATMを採用しています。新型ATMは、入れ替え前のATMに比べ消費電力を最大50%低減しています。また、待機状態で更に消費電力を低減する「省エネモード」についても引き続き適用し、従来の機種より最大20%低減しています。今後も、年間120台のペースで省電力型新型ATMへの入れ替えを進め、ATMの消費電力の低減を進めていきます。



省電力型新型ATM

## 担当からの一言



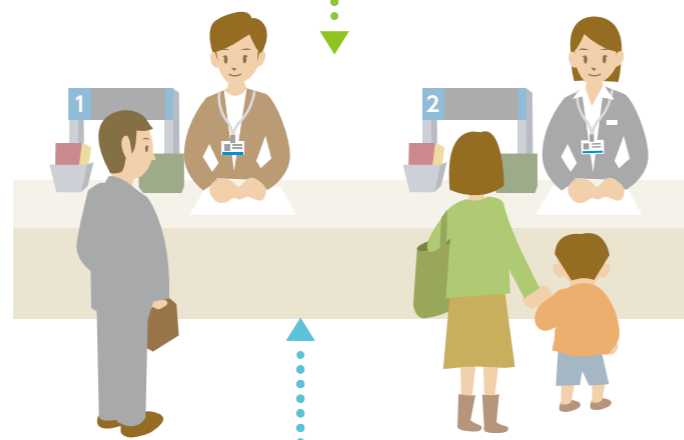
業務サポート部 お客様サポート課  
嵯峨 美波

お客様サポート課では全行的なCS向上テーマ「Delight～お客さま感動をめざして～」のもと平成27年度は「感謝と歓迎の気持ちをこめた丁寧なあいさつ」をテーマに、お客さまとのリレーションづくりの第一歩に重点を置いています。例えば、店頭で配布・設置している「お客さまの声カード」を収集し、行内で共有しています。また来店したいと思っただけの銀行を目指し、一丸となって取り組んでいます。

### 窓口相談



### カウンター



### 現金預払機



## 「お客さまが感動する」サービスを目指して

お客さま目線のサービスを実践するため、「Delight～お客さま感動をめざして～」を全行統一テーマに掲げ、全職員が一丸となってより一層のステップアップを目指しています。  
営業店では、全店で「CS委員会」を立ち上げ、「お客さまが感動する」ために何が出来るかを話し合い、サービス品質の向上を図っています。  
また、外部調査機関による覆面調査を継続的に行うことで、営業店の対応状況をモニタリングし、金融サービス業に必要な接客スキルの向上に努めています。

## 待ち時間短縮のための取り組み

「待ち時間短縮」は、お客さまからのご要望が多い課題の1つであり、各営業店では様々な角度から改善に向けて取り組んでいます。事前に繁忙日をお知らせする「繁忙日カレンダー」の設置や来店時間の事前予約、また、どうしてもお待たせしてしまう場合にお客さまに少しでも快適に過ごしていただけるようなロビー展示等を実施し、改善に努めています。



繁忙日カレンダー

## お客さまに優しい店舗づくり

「杖かけホルダー」「ATMタッチペン」の設置や車いす配備店舗の拡大、店舗建て替え時のバリアフリー設計等、安心・便利な店舗づくりに取り組んでいます。  
「車いす配備店舗」・「車いすでのご来店が可能な店舗(段差がなく、スムーズにご来店いただける店舗)」については、対応済みの店舗をホームページ上で確認いただくことができます。



ATMタッチペンの設置

## 振り込め詐欺防止の声かけ

振り込め詐欺の被害は年々増加しており、平成26年中の北海道内の詐欺被害は259件約12億5千万円となっています。  
こうした状況の中、当行では金融犯罪対応を行う専門部署を設置し、被害の未然防止と被害にあわれた方の救済に取り組んでいます。  
詐欺被害は高齢の方が多いため、高齢のお客さまの振込や高額現金払戻しに対しては「声かけ」を行い、詐欺の可能性について確認しています。また高額現金払戻しの場合は、安全性の高い自己宛小切手の利用をおすすめしています。

### 障がいがある方への対応

障がいがあるお客さまや高齢のお客さまが利用しやすい銀行を目指して、対応力向上・サービス体制の充実等、様々な取り組みを行っています。視覚障がいのお客さまには、窓口受付の振込手数料をATM利用振込手数料と同額に引き下げています。また、音声案内対応ATMを全営業店に1台以上設置し、店舗外ATMについても対応拡大を進めています。耳の不自由なお客さまには、「耳マーク」、コミュニケーションボード、筆談ボードを全店に置いています。更に、行員の資格取得を推進し、単なる介助技術だけではなくコミュニケーションに重点を置いた資格「サービス・ケア・アテンダント」認定者や「認知症サポーター」を営業店に配置しています。



耳が不自由であることを知らせていただき、必要なお手伝いを行うためのボード

入出金・口座開設・名義変更等希望する手続きを指し示すボード

### 金融犯罪防止セキュリティ対策

金融犯罪からお客さまをお守りし、インターネットバンキングを安心してご利用いただくため、様々なセキュリティ対策を行っています。セキュリティツールの無償提供、取引結果のEメール通知のほか、パスワード生成ソフト、生成機や電子証明書方式の導入等のセキュリティ対策を実施しています。また、不正利用の発生状況を踏まえた対処方法についてDM・Eメール・ホームページ等で、適切にお客さまへお知らせし、金融犯罪の発生防止に取り組んでいます。

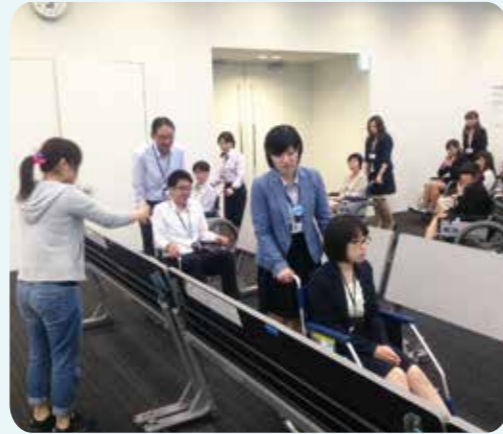


パスワード生成機

### 多様な人材登用

当行では、誰もが安心して暮らせる社会の実現、また年齢・性別・国籍・障がいの有無等に左右されない公平な処遇を心がけ、幅広い人材登用を行っています。ワークライフバランスを実現するための諸制度も積極的に導入しています。また、これら諸制度の利用促進に向け、職場の理解等利用しやすい環境づくりも、研修等を通じて醸成に努めています。

### 高齢の方、障がいがある方への対応 社内研修



研修の様子

高齢の方や障がいがある方等、あらゆるお客さまの立場に立って同等のサービスをご提供するための社内研修を年2回実施しています。「視覚障がい」「聴覚障がい」「認知症」「車いす利用者」への理解を深め、職員全員が共通認識をもってサービスできるよう努めています。

### 商品サービスの拡充

#### 預金商品

年金を当行でお受け取りいただいているお客さま向けの「年金受給者向け金利優遇定期」のお取り扱いを継続しています。また、お孫さま等へ教育資金を一括贈与する場合、贈与税が非課税となる「教育資金贈与専用預金(愛称:エール)」をお取り扱いしています。

#### 各種サービス

お客さまに、より便利にご利用いただくため、各種サービスの拡充を図っています。当行で発行しているクレジット機能付ICキャッシュカード「clover」をご利用のお客さま向けに、銀行取引での各種優遇サービスをご用意しています(当行ATM時間外利用手数料無料、銀行取引によるポイント加算、cloverとあわせて住宅ローンを当行でご利用いただいているお客さま向けにはATM当行宛振込手数料優遇等)。平成26年12月からは「海外用プリペイドカード」の紹介業務、平成27年3月からは国内・海外のJCB加盟店で使える「北洋-JCBデビット」の発売を開始しました。今後もお客さまのニーズにお応えできるよう、商品・サービスの向上に努めていきます。

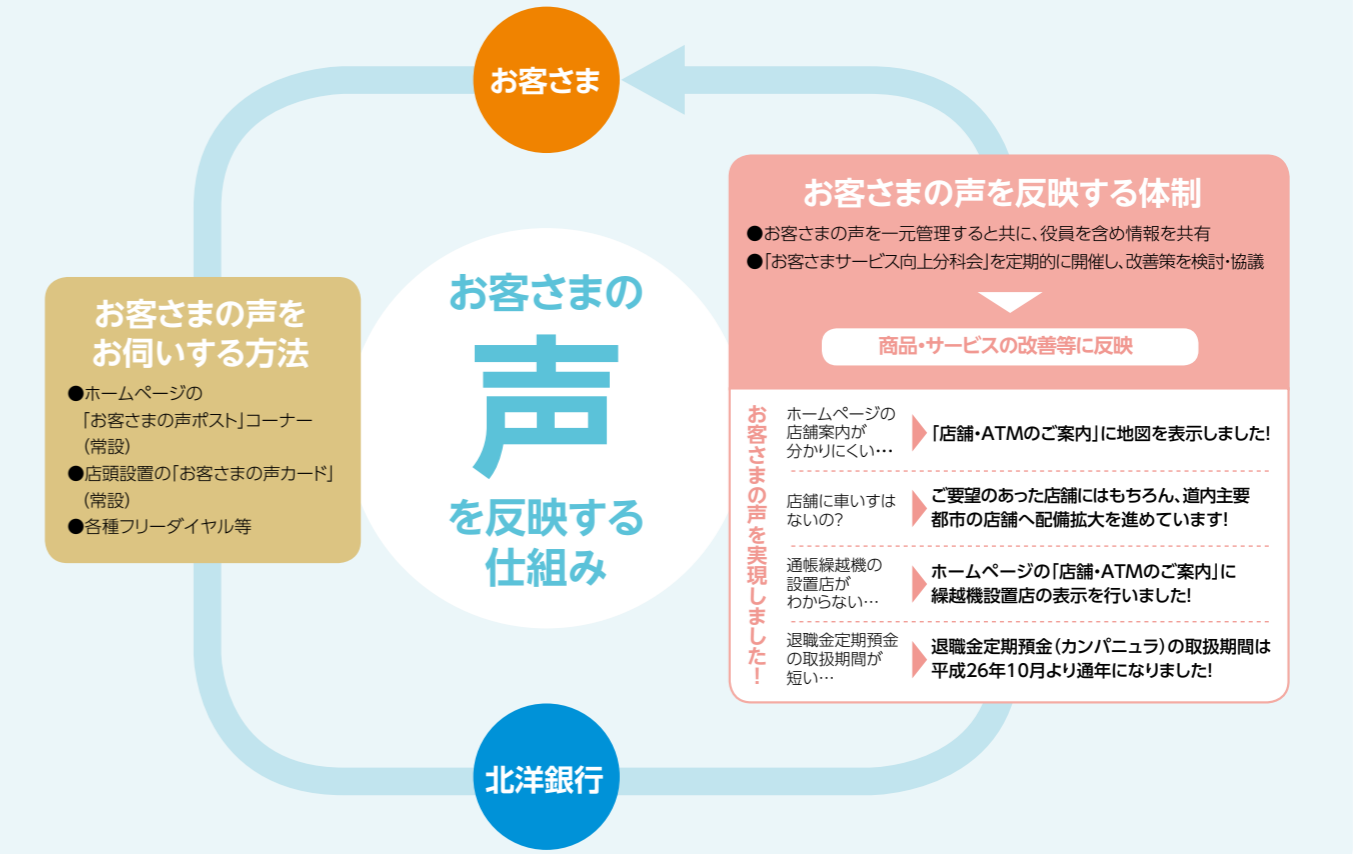


北洋-JCBデビット

### お客さまの声の収集と反映

お客さまのご意見、ご要望を商品・サービスに活用するため、様々な形でお客さまの声を伺っています。店頭窓口で承ったご意見・ご要望をはじめ、ホームページの「お客さまの声ポスト」、店頭で配付・設置している「お客さまの声カード」等で寄せられたお

客さまの声を一元管理し、大切な情報として行内で共有しています。また、定期的に「お客さまサービス向上分科会」を開催、CS向上策を議論し、お客さまの声を活かす仕組みづくりと苦情の再発防止や商品・サービスの改善に役立てています。



### このマークが目印 グリーン購入

環境負荷を減らす活動の一環として、物品の購入や借受け、サービスを受ける場合には、価格、品質、利便性、デザインのほか、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先的に選択する「グリーン購入」に取り組んでいます。お客さまへのPR品(ノベルティグッズ)を選ぶ際も「グリーン購入」に努めています。



### 太陽光発電導入済みの支店

小樽中央支店には、店舗屋上に太陽光発電パネルを設置し、温室効果ガス削減に努めています。店内には太陽光発電パネルと連動したモニターを設置しており、現在の発電量が一目で分かるようになっているため、環境保全と節電への意識啓発にも繋がっています。



小樽中央支店



店内設置モニター



特集 2

地域への  
取り組み

# 地域とまちと共に歩むCSR

地域に密着して健全な資金の需要に対応しながら、それぞれの経営課題の解決を全力でサポートする等、お取引先と地域経済のこれからも続く発展に貢献できるよう取り組んでいます。

## 地域密着型金融を通じた 地域経済の持続的発展に向けた取り組み

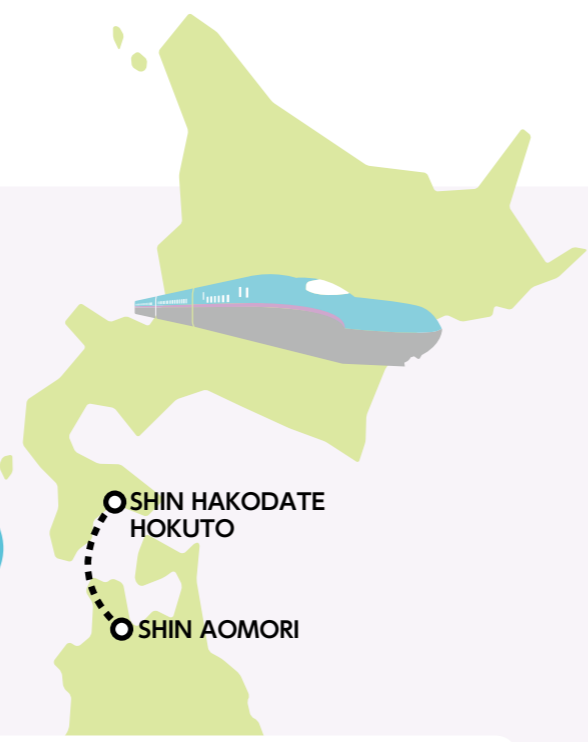
### 青函振興への取り組み

平成27年度の北海道新幹線開業を見据えた観光振興と、青函両地域の経済活性化に向けた様々な取り組みを行っています。



店舗スペースを活用して青函の観光情報の発信

青函振興を  
応援します!



函館中央支店の新幹線開業対応委員会

### ボードの設置

北洋大通センター1階と函館中央支店店舗入口に、北海道新幹線開業に向けたカウントダウンボードと北海道新幹線開業応援ボードを設置しました。多くの方の目に留まることで、更に広く認知していただくという狙いです。



北海道庁の北海道新幹線開業PRキャラクター「どこでもユキちゃん」と当行のキャラクター「ほっくー」

### 青函産業振興室の設置

平成25年4月に青函産業振興室を設置し、函館に専任者1名を駐在させて地域により密着した活動を展開しています。青森との取引拡大を希望する道内の企業・団体と青森側の企業・団体とのビジネスマッチングの実施や、道南地域を中心とする自治体、観光協会等のプロモーションをサポートしています。

### 担当からの一言

地域産業支援部  
青函産業振興室(函館中央支店駐在)  
室長代理 大内 さおり



“産学官金”を掲げ、食品、観光産業、農業、大学、官公庁、関係機関等、青函圏の様々な立場の方々と連携しています。産業振興の仕事は、地域経済と共に発展していくための素地を作る仕事です。北海道新幹線の開業を地域が大きく飛躍する千載一遇のチャンスと捉え、青函圏のビジネスマッチングはもとより、新たなビジネスに取り組む企業のサポート等、地道な活動を行っています。気軽にご相談いただける地域の産業振興のプラットフォームとなれるよう取り組んでいます。

## 青森銀行との連携事業

### 連携協定

当行は、平成24年12月に青森県最大規模の地域金融機関である青森銀行と連携協定を結びました。平成25年4月から、両行の相互ATM無料開放がスタートし、お客さまにより便利にご利用いただけるよう努めています。



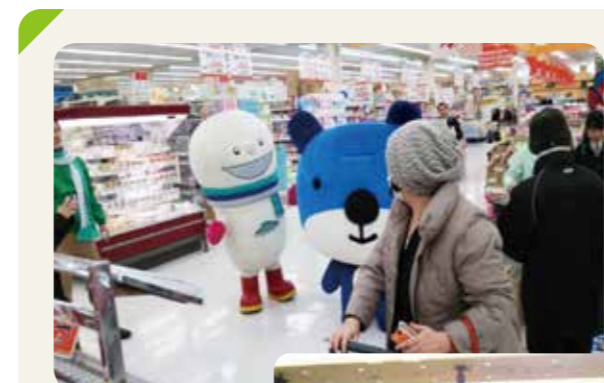
ATMの両行相互無料開放

### 青函活性化ファンド

平成26年5月に、青函地域の企業に対し成長資金の供給や経営支援を行う官民連携ファンドを青森銀行等と設立しました。このファンドの第1号投資先として、創業135年の老舗である函館の株式会社五島軒に投資を実行しました。



北海道七飯産と青森産の2種類のりんごを使ったロールケーキ「五島軒函館ロール」



青函フェアの開催



青函連携商談会

### 食の交流をテーマに商談会とフェア 青函圏「食と観光」活性化 連携の取り組み

北洋銀行、青森銀行、新日本スーパーマーケット協会、アークスの4者は、青函圏の食材を使用した新たな食の開発や販路拡大に、連携して取り組んでいます。平成26年10月・11月には、青函圏の食の交流を目的とした商談会を開催しました。

またアークスの子会社であるラルズ(本社札幌市、58店舗)、ユニバース(本社八戸市、54店舗)、道南ラルズ(本社函館市、17店舗)は青函圏の旬の食材、特産品等を販売するフェアをそれぞれ開催。青函圏の商品に関するフェアは、今後も3か月に1回程度開催の予定です。

## 津軽海峡フェア

### 食と観光による地域活性化イベントを開催

道央の企業にも新幹線開業をビジネスに生かしてもらおうとホテルオークラ札幌で「津軽海峡フェア・食と観光による地域活性化交流会」を開催し、道央のスーパーやホテル、メーカー、旅行代理店や広告代理店等約150名が来場しました。



ホテルオークラ札幌による青函圏食材ビュッフェ

会場には津軽海峡圏の食材を使ったビュッフェが登場したほか、津軽海峡圏の15社・団体がブース出展し、地域の魅力や特産品を売り込



「津軽海峡マプロ女子会」によるトークセッション

みました。また道南と青森の異業種の女性たちで作る「津軽海峡マプロ女子会」を招へいし、新幹線開業を道内全体で盛り上げるための気運醸成に取り組みしました。

特集 1

特集 2

環境保全

医療福祉

教育文化

経営について



## 地方創生の積極的推進

### ノウハウやネットワークを活かした地域活性化への貢献

地域経済活性化の取り組みを加速させるため、平成27年2月に「地方創生推進室」を設置しました。地方創生に関する当行の司令塔としての役割を果たし、行内一丸となった横断的な支援体制の構築を目指します。

地方創生に向けた取り組みとして、同年3月に「日胆観光・産業振興フォーラム」を開催しました。(株)JT北海道及び(株)北海道二十一世紀総合研究所との連携により、北海道新幹線開業の経済効果を日高、胆振管内に呼び込む方法を考える場を提供し、関係者ら約200名が来場しました。

今後も当行の有するノウハウやネットワークを最大限に活かし、地域の優位性や資源を活かした産業振興、革新的な新事業・創業、グローバルなマーケットの開拓等、地方の意欲的な取り組みを積極的に支援し、地域発展に貢献していきます。

### インフォメーションバザール

北洋銀行インフォメーションバザールは、昭和59年から“北海道の生産企業と流通企業の出会場の場”として開催しています。札幌開催が20回を数えた後、お取引先企業の道外ニーズにお応えするため、平成17年度から首都圏での「インフォメーションバザール in Tokyo」、平成18年度からは関西圏での「インフォメーションバザール in Kansai」を開催し、道産食材・食品の国内販路拡大を支援しています。昨年で東京開催10回目を迎えた「インフォメーションバザール

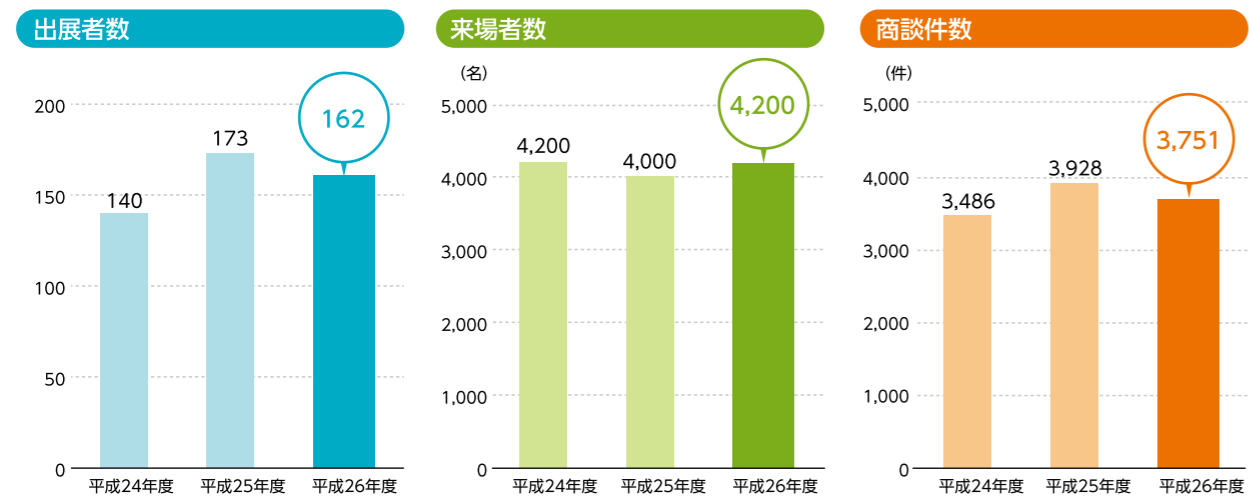


インフォメーションバザール in Tokyo

in Tokyo]では、新たな試みとして、一次生産者や6次産業化に取り組む皆さまに多数ご参加いただき、業務用食材のビジネスマッチングを行いました。鹿児島銀行との連携による「南の逸品商談会」の同時開催も7回を数え、北海道から162社・団体、南九州から67社・団体の皆さまにご出展いただきました。当日は約4,200名のバイヤーの皆さまにご来場いただき、好評を得ました。



#### 開催状況(インフォメーションバザール in Tokyo)



### 食のプロダクトデザイン(FPD)

商品開発や改良、マーケティング、ブランディング、セールス等に欠かせない「商品力」「営業力」の強化に向け、お客さまの本業支援となる「食のプロダクトデザイン事業」を実施し「課題抽出」「課題解決」「効果測定」等の幅広い支援を展開して



食品バイヤーとの個別相談の様子

ます。平成26年度はセールスサポート・個別相談会・パッケージ改良・海外販路拡大等で34社に対し支援を行いました。

#### 担当からの一言

地域産業支援部 フードビジネス推進室 主任調査役 鈴木 大

お客さま(企業)とバイヤーとの商談は真剣勝負です。その場に立会い、支援している企業の商談が決まると非常にやりがいを感じます。その後、店舗にその商品が並んでいるのを見ると…二度目のやりがい。お客さまと一緒に“喜べる”この事業の発展に努めます。

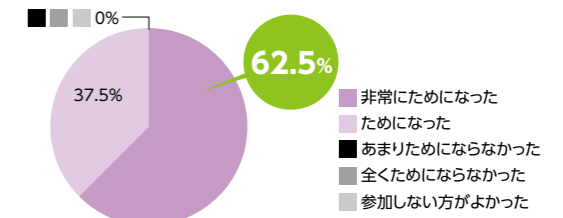


### お客さまの声

参加者アンケート 集計結果より

平成26年度 商品ブラッシュアップ個別相談会

個別相談会に参加していかがでしたか?



- 自分の見ていた視野以外の所からの意見があり、非常にためになりました。
- バイヤーの方の生の声を聞かせてもらえた。
- 道外企業のご担当者様より直接アドバイスを頂き商品改良のヒントとなった。
- 販売に対する貴重なアドバイスがいただけた。

今後の改善点や期待等をお聞かせください。

- 同じ商品でもバイヤーさんによって意見が分かれとても勉強になりました。
- 時間をもう少し長くしてほしい。(30分では短いので1時間ぐらい)

### 道内ものづくり産業展示型商談会 ものづくりテクノフェア

平成19年から道内ものづくり産業の振興を目指して、展示型商談会「ものづくりテクノフェア」を開催しています。優れた技術や製品の販路拡大を支援すると共に、出展者の商談ニーズを事前にお伺いして来場者と専用ブースでの「事前マッチング」を実施し商談機会を提供してきました。また、平成26年は「ほっかいどう受発注拡大商談会」(主催: (公財)北海道中小企業総合支援センター、(一社)北海道機械工業会)、「開放特許活用ビジネス交流会」(主催: 札幌市)と同日開催し、ビジネスチャンス拡大の場として内容を充実させることができました。



ものづくりテクノフェア

### 観光プロモーション

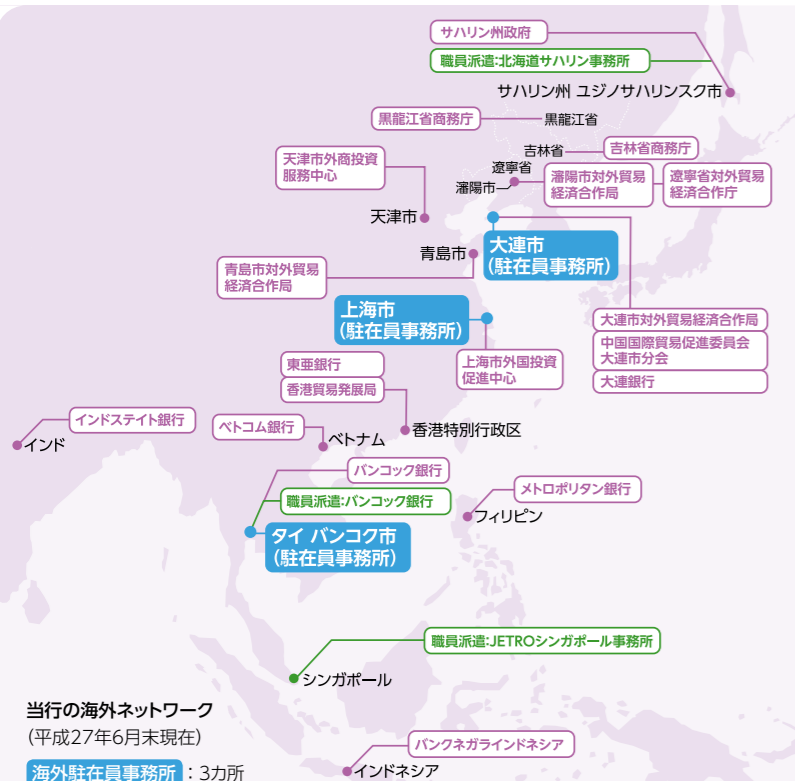


観光プロモーション

平成23年度から北海道と連携し、道内各地の自治体等が地元をPRする場として、札幌駅前通りと大通が交差する札幌中心部に位置する「北洋大通センター」のスペースを無償で提供しています。

魅力的な観光資源やイベントをPRする場を提供することにより、観光客誘致や地域振興に積極的に取り組む自治体等を支援しています。





当行の海外ネットワーク  
(平成27年6月末現在)  
海外駐在員事務所 : 3カ所  
海外への職員派遣 : 3名  
海外提携先 : 18先  
・政府機関等 : 11先  
・金融機関 : 7行



大連駐在員事務所



上海駐在員事務所



バンコク駐在員事務所

### 海外での事業展開支援

道内企業の国際化を支援し、北海道経済の振興・活性化を図るためのコンサルティングを、国際部を中心に積極的に行っています。海外進出支援や食品の輸出といった海外へのアウトバウンド向けのサポート、海外からの観光客等インバウンド向けのサポートに注力し、海外との取引にあたっての為替リスク軽減の手法もご提案しています。当行は、道内取引企業のニーズにお応えし、国際化についての経営課題をお客さまと共に解決していくことで、外為を含む総合取引を推進していきます。

#### 担当からの一言



国際部 国際企画課  
主査 高橋 明史

北海道サハリン事務所への出向を終え、本年4月に帰国しました。国際部では、海外勤務や外部出向を経験した者がその経験や人脈を活かしてコンサルティングを行っています。「北海道」はブランドとして海外で高い人気を誇っており、道内企業にも多くのチャンスがあります。当行の海外ネットワークを、ぜひご活用ください。

#### ASEAN

平成26年1月にバンコク駐在員事務所を開設し、「オール北海道のビジネスセンター」として、道産品の販路拡大、企業の海外進出や観光誘致に積極的に取り組んでいます。また、現地のバンコック銀行等との提携により、金融サービスを提供しています。

#### 香港・台湾

東亜銀行、香港貿易發展局との提携及び北海道日本香港協会事務局としての活動実績等をベースに、重点地域として取り組みを強化します。

#### 中国

2つの駐在員事務所や大連銀行等の提携先を活用して商談会を行う等、ビジネスチャンスの提供と現地サポートに力を注いでいます。

#### 「中小企業経営力強化支援法」に基づく「経営革新等支援機関」認定

当行は、平成24年11月、経済産業省の「中小企業経営力強化支援法」に基づく「経営革新等支援機関」に認定されました。中小企業の財務内容等の経営状況の分析や事業計画の策定・実行支援の業務に必要な専門的知識、実務経験が一定レベル以上であることが認められたのです。今後も、中小企業の様々な経営課題(創業、事業計画策定、事業承継・M&A、販路開拓・マーケティング、海外展開等)に取り組む「中小企業の経営力の強化」を支援します。

#### 地域交流 雪はねボランティア

道内の様々な企業が連携して行う「雪はねボランティア」に継続的に参加しています。平成26年度は、倶知安町でのボランティアに参加しました。高齢者宅の雪はねを行うことで、地域との交流にも繋がっています。



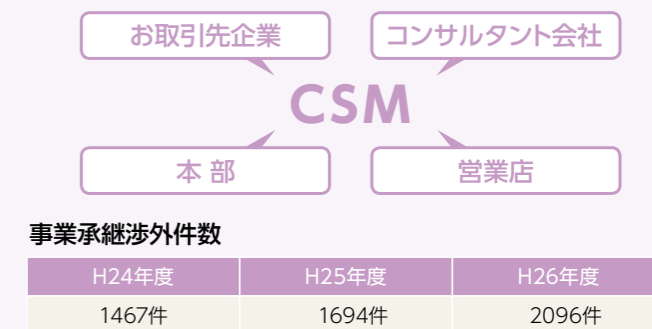
雪はねボランティア

### 事業承継支援

経営者の高齢化や後継者不在による廃業が増える中、「事業承継」は中小企業にとって重要な経営課題の一つです。当行は、本行内に専任者7名を配置して、事業承継や株式移転、M&A等のニーズに沿った支援を行っています。また、企業の事業戦略・経営課題のニーズを抽出し最適なソリューションを議論したうえで提案するために、お取引先企業・コンサルタント会社・本部・営業店の4者による「企業戦略会議(CSM=Corporate Strategy Meeting)」を展開しています。

#### 事業承継支援内容

作業ステップ	STEP 1	STEP 2	STEP 3
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営者層にインタビューをすることにより、事業承継スキームに有用な情報を把握します。</li> <li>必要に応じて、株価の評価、事業用資産の評価等を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業承継スキームのシミュレーションを実施します。</li> <li>顧問税理士等の専門家とも意見交換し、調整を図ります。</li> </ul>	選択したスキームを実現するための支援を行います。
支援体制	当行事業承継支援チーム 当行提携先 顧問税理士、顧問会計士 等		



### ファンドで地域を応援

有望な技術をもつベンチャー企業や海外進出志向のある企業及び農林漁業分野の企業が成功するためには、融資での資金援助だけでなく、ファンド等を通じた資本力増強と信用補完が効果的です。当行は、通常の融資に加え、企業のニーズに応じた各種ファンドを用意し、企業の事業展開をサポートしています。

#### 平成26年度活用状況

	支援先数
北洋イノベーションファンド	19
北洋6次産業化応援ファンド(支援決定先含む)	3
北洋農業応援ファンド(支援決定先含む)	1
北洋銀行ドリーム基金	10

#### 担当からの一言



地域産業支援部 フードビジネス推進室  
調査役 大和田 康

当行ではお客さまの様々なステージ、経営環境に合わせ、融資ばかりではなく、各種ファンドを通じた出資による資金供給や経営支援を行っています。出資に当たっては、今後の事業展開、課題等をお客さまと一緒に考え事業計画を策定し、出資後も事業進捗状況の確認やビジネスマッチングによる販路拡大のサポート等、お客さまと一体となって取り組んでいます。お客さまからは「資金調達という面だけでなく、銀行と共に各種の経営課題に取り組むことができる」とのお声をいただいています。

### 道内企業の研究開発を支援

#### 北洋銀行ドリーム基金

道内中小企業が取り組む新技術と新製品の研究開発に助成事業を行う公益財団法人北洋銀行中小企業新技術研究助成基金(愛称「北洋銀行ドリーム基金」)は、平成元年の基金設立から毎年3件300万円の助成を行ってきました。平成22年からは、今後成長が期待される「環境・省エネ」関連技術への研究助成を強化するため、助成枠を5件500万円に拡大。更に平成25年度からは、助成枠を10件1,000万円に拡大し、北海道の中小企業の成長を支援しています。

### 税理士との連携

#### 北海道税理士会

北海道税理士会とは、平成26年3月に「中小企業支援に関する覚書」を締結し、各支部と当行営業店の連携強化のため、勉強会及び懇談会を開催しています。平成26年11月には税理士会旭川支部と当行旭川ブロックにて懇談会を開催しました。

#### TKC北海道会

TKC北海道会とは、平成25年1月に、それまでの連携内容から更に一歩踏み込んだ「中小企業の経営力強化に向けた取り組みに関する覚書」を締結しています。平成23年からは毎年、各営業店とTKC北海道会会員が合同で「連携強化セミナー」を開催しています。





自然豊かな未来へ、  
いまできることを。

「環境保全は、当行の営業基盤である北海道はもちろん、世界全体の発展にはなくてはならないもの。私たちはこの取り組みを、「当行自身の環境負荷低減への取り組み」と「ビジネスを通じた取り組み」の2分野で推進しています。」

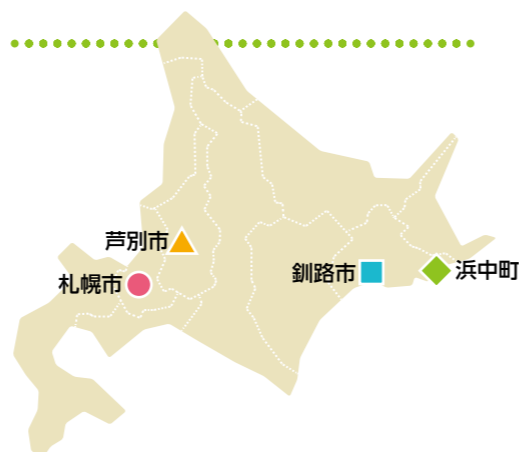
## ほくー基金とほくー定期預金



### ほくー基金

#### 北海道で生きるみんなのために

当行は、平成22年に北海道の生物多様性保全を目的とした「ほくー基金」を設立しました。設立以来、19先に助成を行い、今年度は更に平成26年度分として7先に贈呈します。今後も、ほくー基金選定協議会の助言のもと、希少動植物の保護に取り組む団体等を応援していきます。



### 第6回さっぽろ環境賞

#### 生物多様性保全部門

## 優秀賞を受賞しました

銀行本来の業務である「預金」を活かし、お客さまと一緒に取り組むことができる、事業と環境保全を両立させた模範的取り組みであるとして高く評価されました！

### ほくー定期預金

「ほくー基金」の主な原資として「ほくー定期預金」を全店でお取り扱いしています。お客さまにお預け入れていただいた「ほくー定期預金」3月末時点の残高の0.01%相当額と、満期案内不発行により削減できる郵送料相当額を、当行が「ほくー基金」に拠出します。これにより、お客さまは間接的に「ほくー基金」へ参加し、北海道の生物多様性保全に貢献いただくことができます。

期間1年の自動継続型定期預金で、預入金額は1,000円から、金利は店頭表示金利です。通帳は当預金専用で、「環境配慮型通帳」を採用しています。また、通帳の素材に、地球環境に配慮した紙クロスと植物由来成分のインキを使ってリサイクル適性を向上させたほか、塩化ビニールを用いない磁気テープの採用で廃棄適性も向上させています。



### ほくー基金口座の設置

#### 募金専用口座

北海道の生物多様性保全に、当行の役職員はもとよりお客さまに広くご参加いただき、道民一丸となって取り組めるよう「ほくー基金」の専用寄付口座を設け、協力金形式の募金を受け付けています。各営業店の窓口で、お振込手数料無料で受け付け、個人から法人のお客さままで広く皆さまのご協力を募っています。

### ほくー基金のしくみ



### 平成26年度贈呈先

- NPO法人エトピリカ基金
- 岨山自然保護協議会
- 釧路市動物園
- 札幌ワイルドサーモンプロジェクト
- 第5回国際野生動物管理学会議
- 北海道自然史研究会
- 北海道生物多様性保全活動連携支援センター

設立以来、延べ26先 2,940万円を助成しました。

### 担当からの一言



リテール戦略部 リテール企画課  
主任調査役 沢田 豊

ほくー定期預金は、残高に応じてほくー基金へ寄付することを目的としており、その趣旨にご賛同いただいた多くの道民の皆さまにお預け入れていただいています。今後も北海道の生物多様性保全に貢献するCSR関連定期預金として広く周知を図り、一人でも多くの方にお預け入れていただけるよう取り扱いを継続してまいります。



自然豊かな未来へ、いまできることを。

ほっこー基金  
応援1

## 岨山の希少植物を取り戻そう!

岨山自然保護協議会

全国でも稀な入山制限を続け、モニター登山会や外来植物駆除、巡視を実施。

芦別市の南部に位置する岨山は、環境省がレッドデータブックに示した絶滅のおそれのある植物リスト中、37種が生育している等高山植物が宝庫の山です。近年の登山ブームによる入山者の増加や環境悪化等のため高山植物が減少し、平成11年から国内初の入山制限を実施しました。官民一体で設立された岨山自然保護協議会では、外来種駆除やモニター登山会のためのルート整備を行っています。モニター登山会開催によって岨山の現状と自然環境保護の大切さを伝え続けています。当行は、「ほっこー基金」を通じて、この活動を応援しています。



モニター登山会に集まった皆さま

芦別市 岨山



### 参加者からの声

入山を開放すると過密になり貴重な植物が失われてしまうので、自然保護の為にこれからも入山を制限したほうが良い。  
(埼玉県、60代、男性)

希少植物を保護するためにはモニター登山は必要な保護活動だと思います。これからも保護活動と入山制限への継続を期待します。  
(芦別市、50代、男性)

保護制限はこれからも必要だと実感した。自由に入山できる日があるには、入山者がしっかり自然保護に対する意識を高めるべき。  
(札幌市、40代、女性)

### スタッフからの一言

齋藤 雅樹さん



高山植物保護のために決断した入山制限に対し、当初、多くの苦情が寄せられました。自然保護意識の高まりと共に苦情はなくなりましたが、一度荒廃した岨山の植生回復は進まず、入山制限の継続は今後も必要であると考えております。モニター登山会の実施によって植物の回復度合いを参加者自身に確認してもらい、自然保護の大切さを認識していただきたいと思っております。岨山が昔の姿に戻るまで私たちの活動は続きます。

### 植生は回復途上

岨山は南北2,100m、東西100mという非常に狭い石灰岩の山である。植物の生育にとっては極めて特異な環境であるが、固有種であるキリギシソウをはじめ350種もの植物が確認されている。



### 保護活動による岨山の変化



平成11年  
岩壁のオオヒラウスユキソウは死滅状態。踏み跡等が目立つ山肌。

平成24年  
植生の回復が進み、かつての踏み跡は消えつつある。

### 岨山の完全復活が目標

高山植物保護のための巡視活動や林道ゲートの確認、モニター登山会のためのコース整備、外来植物駆除等、保護活動の実施を継続していきます。

### 岨山の希少な植物たち



ホテイアツモリ 環境省指定 特定希少野生動物植物  
キリギシソウ 北海道指定 特定希少野生動物植物  
オオヒラウスユキソウ 北海道指定 特定希少野生動物植物  
キバナアツモリソウ 北海道指定 特定希少野生動物植物

ほっこー基金  
応援2

## 北海道の「生物多様性」を守る活動を応援!

北海道生物多様性保全活動連携支援センター (HoBiCC: ホビック)

札幌市



外来種「セイヨウオオマルハナバチ」の情報発信と駆除の取り組み

ハウス栽培のトマトやナスの授粉用として海外から導入され、野生化してしまったセイヨウオオマルハナバチは、平成25年度末には、北海道の129市町村で生息が確認されました。現在では北海道のほぼ全域に定着したといわれ、在来種や野生植物等生態系への悪影響が懸念されます。しかし、こうした問題は一般にあまり知られていません。そこで、広く一般の方に理解してもらうための情報発信と、平成26年からは市民参加型の駆除活動を実施しています。恵庭市にあるえこりん村では、問題点を学習しながら駆除活動を行っています。当行は、「ほっこー基金」を通じて、この活動を応援しています。



セイヨウオオマルハナバチ



模型による駆除の必要性の説明

### 「セイヨウオオマルハナバチ」がもたらす影響

北海道には、エゾオオマルハナバチ等11種類の在来のマルハナバチが生息し、野生植物の受粉に欠かせない存在となっていますが、セイヨウオオマルハナバチが繁殖すると、餌や巣の競合による在来種の駆逐や受粉植物の減少が心配されます。



### 参加者からの声

セイヨウオオマルハナバチの捕獲作業  
虫網の端を上につまむとハチは上に向かって飛ぶので、その習性を利用して下から容器を入れて捕獲します。

私は女王バチ3匹、全体で30匹という結果でしたが、全体の駆除数を見て、少し少なすぎなのでは?と思いました。ですが、少ない事はいいことです。次回もぜひ参加したいです。  
(札幌市内専門学校生 工藤彰馬さん)

セイヨウオオマルハナバチの駆除を通じて、問題視されている盗蜜の状況も現場で確認することができ、このマルハナバチの影響を実感することができました。  
(札幌市職員 島山亜希子さん)

### スタッフからの一言

一言

北海道生物多様性保全活動連携支援センター (公益財団法人北海道環境財団)

安保 芳久さん

日常的に目にできるほど拡大したセイヨウオオマルハナバチの防除を図るには、多くの皆さまに駆除・捕獲に参加いただくことが必要です。そこで、HoBiCCでは市民参加型モニタリング情報共有システム「セイヨウ情勢」を運営することで、駆除活動への市民参加の拡大・支援に努めています。



えこりん村に集まった皆さま

### その他の活動

生物多様性保全について正しく理解してもらう取り組みとして、「ヒグマ等の大型哺乳類と人間との関わり」「エゾシカ問題とシカ肉の有効活用」「企業活動と生物多様性」等をテーマにシンポジウムを実施しています。

### 生物多様性を守るための具体的な行動(B-ACT7)を提唱しています。

「たべよう」「ふれよう」「しらべよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」「つなごろう」の7つのアクション(B-ACT7)を提唱しています。身近な行動が、生物多様性を守るための第1歩です。

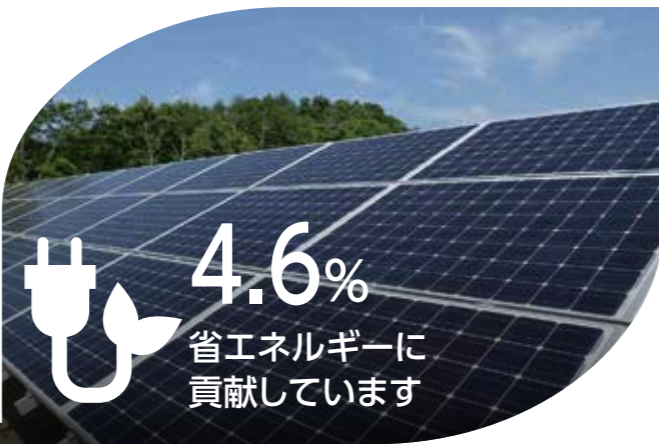
HoBiCC 北海道生物多様性保全活動連携支援センター

詳しい情報はwebをご覧ください。  
<http://www.heco-spc.or.jp/HoBiCC/>



## 当行自身の環境負荷低減への取り組み

美しく豊かな北海道の自然。その財産を守り、次世代へ継承するのは我々の責務です。日々の業務の中、ほんの一枚、ほんの小さなことから少しずつ環境負荷低減の取り組みを積み重ねています。

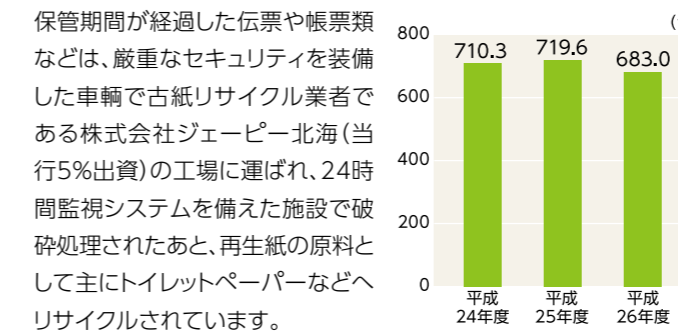


## FTSE4Good

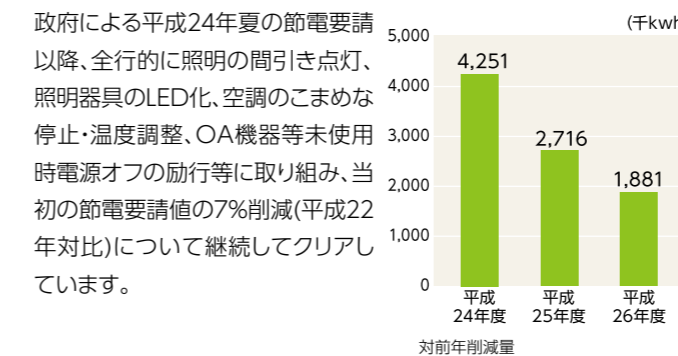
社会的責任投資(SRI)指数「FTSE4Good Index」は、環境保全や社会貢献活動、倫理規定や雇用などに関する取り組みがグローバルに受け入れられる基準を満たしている企業によって構成されています。当行のCSR活動が評価され、同指数の構成銘柄に当行株式が採用されています。



## ほんの一枚も大事な資源 古紙リサイクル



## 小さなことから変えています 電気使用量の削減



## 北洋銀行がランク3に 北海道グリーン・ビズ

北海道グリーン・ビズ認定制度は、環境に配慮した取り組みを自主的に行う事業所等を登録・認定する北海道の制度です。当行は、3段階の登録基準のうち、最上位のランク3に認定されています。



北海道グリーン・ビズ認定制度のランク3の認定マーク

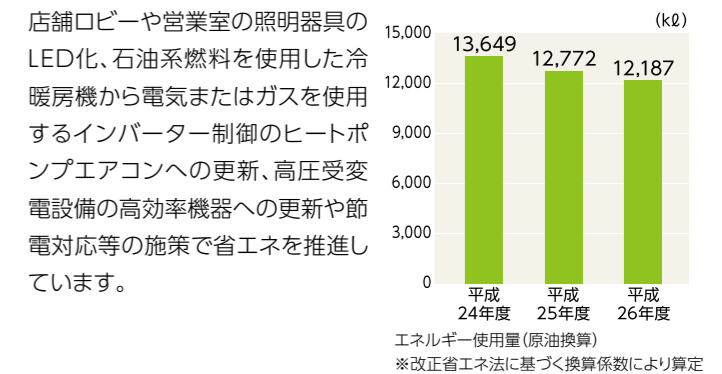
## 事業と環境保全を両立させる ほくく一定期預金の残高

ほくく一定期預金は平成22年9月から取り扱いを開始し、当行の継続的なCSRへの取り組みとして道民の皆さまからご理解・ご協力いただいています。その残高は平成25年5月末時点で500億円を超え、平成27年3月末時点では648億円となり、着実に積み上がっています。

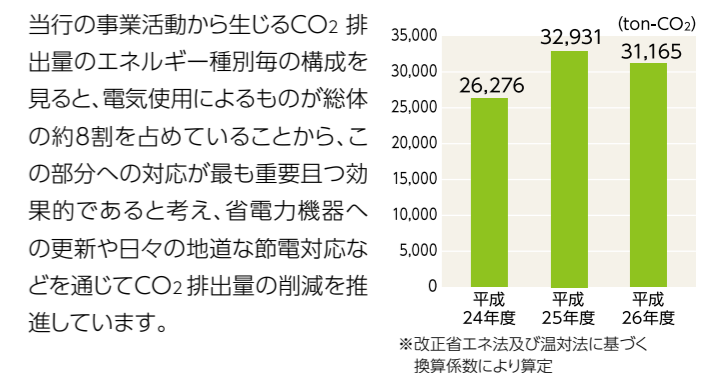


ほくく一定期預金リーフレット

## 全社をあげて取り組みます 省エネルギー



## 小さなことから変えています CO2排出量



## きれいなまちづくりを目指します ごみ拾いに参加しました

当行創立記念日の8月20日に店周及び近隣地域を対象とした「全行一斉ごみ拾い活動」を実施しました。各営業店において、日々店周清掃は行っていますが、全行従業員一丸で行う機会を設けたことで、改めて「環境保全への意識を高める」きっかけになりました。



全行一斉ごみ拾い活動



自然豊かな未来へ、いまできることを。

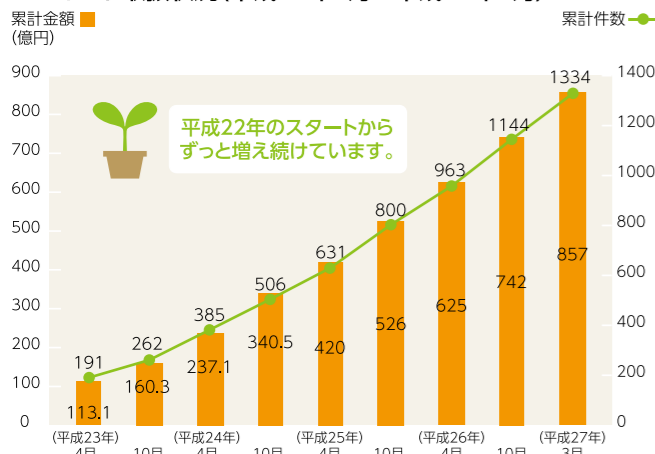
# ビジネスを通じた取り組み

## 環境配慮型企業向け私募債

### 北洋エコボンド

環境に配慮した取り組みを自主的・積極的に行っている企業に対して有利な私募債(北洋エコボンド)を発行し、環境配慮型企業をサポートしています。環境への取り組みは北海道、札幌市等の地方公共団体とも連携を強めていることから、主な対象企業を、北海道グリーンビズ認定制度・さっぽろエコメンバー登録制度の登録企業としています。平成22年4月の取り扱い開始以来、多くの環境配慮型企業の皆さまにご利用いただいています。

#### エコボンド取扱状況(平成23年4月～平成27年3月)



## 再生可能エネルギーへの融資

平成24年7月に開始した再生可能エネルギー発電固定買取制度に基づく、道内再生可能エネルギーへの総投資額は7,000億円超といわれています。

当行では、環境に配慮した再生可能エネルギーを道内に利益還元するために、法人部内に専担者を配置して、発電事業への参入を検討されるお客さまにタイムリーな情報提供とアドバイスを行い、融資強化を図っています。「太陽光発電」「風力発電」「バイオマス発電」等再生可能エネルギー資源が豊富な北海道において、融資の実行実績は実行額ベースで200億円に到達しています。また、地域金融機関の中では先進的なプロジェクトファイナンスの組成も行い、様々なファイナンススキームを提供しています。

### 担当からの一言

法人部 法人企画課  
調査役 内藤 崇

再生可能エネルギー発電事業については、お客さまも事業における疑問点があると思います。その際は、再生可能エネルギー融資について数多くの実績がある当行にて説明させていただきます。



### 担当からの一言

市場開発部 起債グループ  
主査 及川 幸恵

私募債とはお客さまが長期固定金利の資金調達を図るために発行し、それを限られた少数の投資家が引き受けるものです。従来の借入とは異なり、資本市場を通じた資金調達の第一歩となると共に、発行企業の財務内容健全性を対外的にPRできるメリットを有します。市場開発部では、お取引店と共に一丸となって私募債発行が円滑に進むようお手伝いしていきます。



### 取組事例 環境サービス株式会社(砂川市)

●平成18年 エコアクション21認証・登録  
廃棄物の収集・運搬過程における有価物も収集し資源の有効活用を図っています。廃棄物のリサイクルのほかに、環境マネジメントシステムを積極的に活用しつつ「廃棄物の適正処理」を推進し、健全な地域社会の発展に貢献しています。



こどもたちへの体験学習の取組風景

### 取組事例 株式会社アイ・ジー(名寄市)

旧風連中学校跡地を活用したメガソーラー事業



人口減が進む地域における地元貢献を目的に、周辺の活性化及びエネルギー教育の材料として「サンピラーメガソーラー発電所」を計画・事業化しました。年間発電量は、一般家庭の年間電力使用量約520世帯分に相当し、環境面において地域に貢献しています。

## 環境成長分野を対象とした融資ファンド

### 飛翔NEO(はばたきネオ)

平成26年4月から成長分野に対して融資面でサポートする、ほくよう成長サポートファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」を取り扱っています。このファンドは、様々な種類の再生可能エネルギーの宝庫である北海道の地域性を考慮し、「環境エネルギー」分野等を中心に「農林水産」や「観光産業」等8分野を対象としています。また、成長分野の融資は返済期間が10年超となる場合が多いため、最大15年まで取り扱い可能としています。

名称	ほくよう成長サポートファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」
ファンド総額	800億円
貸出金額	1貸出あたり 500万円以上10億円以内
貸出期間	1年以上15年以内
返済方法	元金均等返済または元利均等返済
資金使途	以下の8成長分野に資する資金(運転資金・設備資金) ①医療介護事業 ②農林水産 ③環境エネルギー ④事業承継・M&A ⑤事業再編 ⑥社会インフラ ⑦観光産業 ⑧青函連携

## 民間企業による公共施設サービス支援 PFI事業

当行は、公共施設の整備を民間企業が行うPFIに積極的に取り組み、多くは計画の段階からサポートしています。旭川市立高台小学校の整備事業では、エコボイド(3層吹抜空間)等により自然エネルギーを最大限活用する校舎が完成しました。また、稚内市生ごみ中間処理施設の整備事業では、生ごみのメタン発酵で発生したバイオガスを回収し、施設の内外で有効活用する「稚内市バイオエネルギーセンター」が建設されています。



稚内市バイオエネルギーセンター



旭川市立高台小学校

## 環境ビジネスファンド

平成23年7月に、環境関連に特化した道内初の「環境ビジネス支援ファンド」を設立しました。これは、環境関連のビジネスを行うお取引先の株式を当行が引き受けることで、お取引先企業がより発展し、信用力が高まり、地域経済の活性化につながることを目指すファンドです。ファンド総額は3億円で、環境保全や再生エネルギー分野に取り組む道内中小企業を中心に、株式公開を目指していないお取引先も含め、幅広く対象としています。

## 個人向けローンの拡充

### エコリフォームローン

省エネ改修工事、太陽光発電工事等環境配慮型工事の普及を後押しし、CO<sub>2</sub>排出量削減に協力するため、これらの工事を行うお客さまのローン金利を通常のリフォームローン金利より優遇しています。

### 全国初・ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)対応住宅ローン

ZEHとは、年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロとなる省エネ性能に優れた高付加価値の住宅で、低炭素社会の実現や効率的なエネルギー利用に大きく貢献します。当行が全国に先駆けて取り扱いを開始することで、お客さまの環境へのマインドを高め、北海道の自然環境に優しい住宅の普及を目指します(平成27年4月より取扱開始)。







笑顔が広がる  
ふれあいと助け合い。

医のスペシャリストと手を携えて  
これからの社会と人ひとりとって大切なテーマに取り組む。  
元気な笑顔の輪が大きく広がっていくように。

## 地域医療への貢献と 道内医育大学との連携

当行は、より健康に元気に暮らせる道民の心身づくりと、地域医療に役立つこと、産学が手を組み互いに発展することを目的として、道内の3つの医育大学と包括連携協定に基づく事業を行っています。札幌医科大学とは、平成23年10月から平成27年3月まで大学の各診療科の特徴や最新事例、研究成果を紹介するFMラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」を放送しました。旭川医科大学とは、平成23年4月から10月まで先端医療を中心に遠隔医療等で地域医療活性化の取り組みを紹介するAMラジオ番組を放送しました。北海道大学とは、「市民医療セミナー」を開催しています。



エフエム北海道 高山DJと札幌医科大学 堀尾医学部長



札幌医科大学外観

### 道内3つの医育大学と連携



### 札幌医科大学提携ラジオの小冊子発行

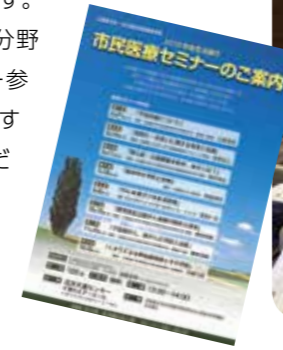
札幌医科大学とのラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」は、大学の各診療科の取り組みや最新療法、研究、教育等多岐に渡るテーマを取り上げて放送しました。毎回、各学部・診療科の先生に直接番組にご出演いただき、聴取者の皆さまに語りかける医療・健康情報番組としてご好評いただきました。

今年度は、最新の医療についてより多くの方に知っていただけるよう、平成26年度に放送した番組内容をとりまとめた冊子を発行します。北洋銀行本支店にも備え置きしていますので、ぜひご覧ください。



### 市民医療セミナーの開催

北海道大学とは、平成23年度に当行の「医療総合アドバイザー」に就任していただいた北海道大学大学院医学研究科がん予防内科学講座特任教授の浅香正博氏を総司会として、市民の皆さまを対象に「市民医療セミナー」を開催しています。これまでに計29回行い、参加者は延べ3,000名を数えます。今年度は、計8回の開催を予定し、各医療分野の専門家を講師に招いています。セミナー参加者からは、身近なテーマで大変わかりやすいと毎回好評で、継続を希望する声をいただいています。



市民医療セミナー

### お客様の声

皆さまからたくさん声をいただきました。  
今年度も様々なテーマで開催する予定です。

2014年度  
第4回参加者アンケート集計結果より

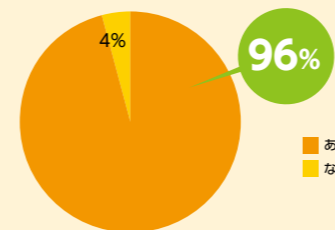
テーマは  
**がん放射線療法の進歩**  
北海道大学大学院医学研究科放射線医学分野  
教授 白土 博樹

北海道発の技術の将来に期待できる。  
楽しみです。(60代、男性)

毎回参加させてもらっていますが、資料が充実してきて大変良いです。大変勉強になりました。ありがとうございました。(60代、男性)

北大が放射線の最先端とは知りませんでした。とても心強さを感じました。(70歳以上、男性)

市民医療セミナーへの過去の参加



2014年度  
第5回参加者アンケート集計結果より

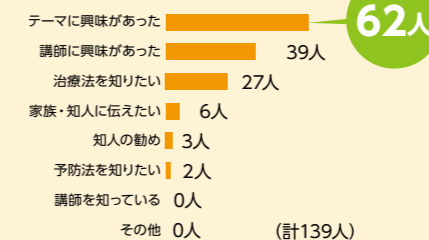
テーマは  
**眼の健康を維持するために**  
北海道大学大学院医学研究科眼科学分野  
教授 石田 晋

わかりやすい説明で、有意義な知識が  
つきました。(70歳以上、男性)

非常に良く理解できました。日常の食事の大切さを痛感しました。(60代、男性)

健康とは、眼も入ることだとは思っていませんでした。メタボリックドミノが病気の初期原因になると知りました。(60代、女性)

市民医療セミナーへの参加理由



2014年度  
第6回参加者アンケート集計結果より

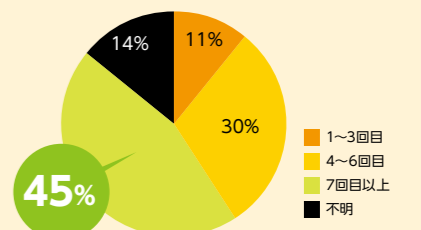
テーマは  
**人ごとではない肝臓病**  
北海道大学大学院医学研究科消化器内科学分野  
教授 坂本 直哉

大変わかりやすかった。脂肪肝の治療方法がまだなく残念です。早く薬が出てほしい反面、個人の努力が必要と感じました。(40代、女性)

肝がん・肝炎・脂肪肝等聞いたことはあっても実態をよく知らなかったの、とても勉強になりました。(30代、女性)

今日はとてもわかりやすい説明で本当に参考になり、家族や知人に今日の話をしたしたいと思います。(60代、女性)

市民医療セミナーへの参加回数





笑顔が広がるふれあいと助け合い。

安心して治療に専念いただけるローン新商品

先進医療ローン

悪性腫瘍に対する陽子線治療等、健康保険の適用を受けられず、一般的に高額な治療費が必要となる先進医療を受けられる患者さまやそのご家族の方を対象にした商品です。医療費も対象にした当行の一般的なローンよりお借入条件を有利に設定し、元金のお支払いも6ヶ月間据置できるため、経済面での不安を緩和し、治療に専念していただけます。厚生労働大臣が指定する難病に対する新しい治療法・手術である先進医療の普及をお手伝いすることで地域医療の発展に寄与していきます(平成27年1月より取扱開始)。



先進医療ローンリーフレット

住宅ローン「ほくよう住実団信」

八大疾病団信に日常のケガや病気の保障を加えた「ほくよう住実団信」の取扱開始により、当行住宅ローン団信が一層充実しました。「365日(1年)ではなく180日基準」の団信は、ローン残高保障を早期にご提供することで、大切なご自宅・ご家族を守り、ご本人も安心して治療に専念いただけます(平成27年1月より取扱開始)。



がん検診率向上への支援

北海道とがん対策推進に関する連携協定を結び、がんの正しい知識を普及させる啓発活動や、がん検診の受診を促進する取り組みに協力しています。ポスター・リーフレット等の店舗設置や店頭でのパネル展実施、啓発イベントへの協賛・宣伝、PR品提供等を行っています。

昨年は、北海道主催の大腸がん検診の受診促進のPRイベントが函館市内の大型商業施設で行われ、宣伝・PR品提供等の協力をしました。大腸に似せた全長7メートルの大型遊具「大腸トンネル」等、子供向けアトラクションが人気を集め、延べ約1,000名が来場しました。

また、平成27年2月には、「北海道がん対策推進計画」の一環として、がん検診受診促進等の助成事業「北海道がん対策基金」が設立され、当基金への窓口扱い振込手数料を免除としています。



会場全景

医療福祉専門部署の設置



医療取引推進担当者研修

医療機関や福祉・介護事業者の皆さまに情報提供や開業支援等のサポートをきめ細かく行っていくために、法人部内に「医療福祉サービス課」を設置しています。平成22年10月には札幌・旭川・函館に医療取引推進専任者を置き、管内の医療・福祉・介護事業者のサポートを強化しています。更に、平成23年4月から釧路・北見、10月からは帯広・小樽・苫小牧にも専任者を置いています。

企業団体献血への協力

当行は、職員参加型のCSR活動として、「医療福祉」支援の一環と位置づけ、企業団体献血への協力を推進しています。平成26年度は、道内各地区で日本赤十字社より献血バスを手配いただき、延べ386名の役職員が参加しました。少子高齢化社会を迎え、献血する方が年々減っています。病気や怪我等で輸血を必要としている尊い命を救うために、持続的に取り組むことのできる身近なボランティア活動として、行内での献血の普及と啓蒙活動に努め、今後も定期的に取り組んでいきます。

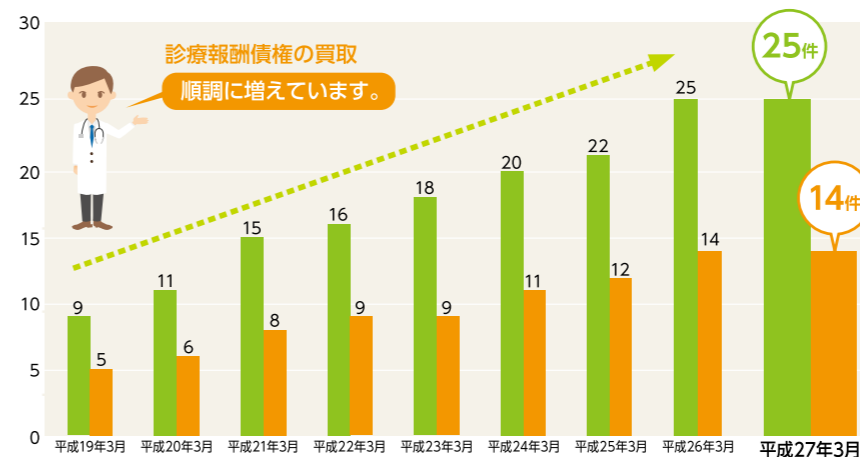


団体献血

診療報酬債権の買取による支援

診療報酬債権流動化の契約法人数

(件) 総契約数 うち地域医療機関契約数 ※札幌市内の医療機関を除く



医療機関が持つ診療報酬債権の買取を行うことで、一般の融資とは全く違う手法で医療機関の資金調達をお手伝いしています。担保や保証人等の問題で従来型の融資に躊躇していた医療法人にもご利用いただける方法で、平成17年の取り扱い開始以来、多くの医療機関にご利用いただいています。これからも様々な方法で、少しでも多くの医療機関の資金調達をお手伝いし、地域医療を支えていきます。

移植医療への協力

移植医療についての啓蒙活動の1つとして、北海道移植医療推進協議会のご協力のもと、全店舗に「臓器提供意思表示カード」を設置しています。人の命に直結する移植医療は重要な課題です。多くの方が臓器移植の必要性を認識し、理解を深めることが推進への近道だと考えています。



臓器提供意思表示カードの設置

骨髄バンク活動への支援



ドナー登録会

「北海道骨髄バンク推進協会」は、尊い命のために骨髄移植の推進とドナー登録者の拡大活動を行っています。当行は、協会設立以来約25年間に渡って、事務局の運営に協力し、経済的支援(寄付)等様々な支援をしています。また、骨髄ドナー休暇を設けて職員の貢献活動も推進しています。





豊かな心と、  
輝く瞳をはぐくむ。

子どもたちが心豊かに、瞳を輝かせて育つまちは、  
暮らしに潤いと感動、笑顔が広がるさへ。  
そんな想いを叶えるための様々な取り組みに努めています。

主催/毎日新聞社 協賛/北洋銀行

第42回 中学生作文コンクール



北洋大通センターでの表彰式

テーマは「未来へ」

北海道の未来を担う中学生の育成を目的として、平成25年度から中学生作文コンクールに協賛しています。今回のテーマは「未来へ」で、全道から2万点を超える応募がありました。表彰式は当行本支店を主会場として、道内の5地区で開催しました。

全道22,264点の応募の中から  
選ばれた入賞者

特選の入賞者

文部科学大臣奨励賞	竹野 留里(室蘭市 星蘭中3年)
北海道知事賞	小崎 未有(札幌市 中央中3年)
北海道中学校長会会長賞	丹下坂美典(函館市 深堀中3年)
北海道学校図書館協会会長賞	神谷 碧(旭川市 北門中2年)
特選 毎日新聞社賞	山本 晶斗(美瑛市 美瑛中2年)
特選 北洋銀行賞	五十嵐由依(釧路市 鳥取中3年)

特選入賞者からの

一言

文部科学大臣奨励賞を受賞した

竹野 留里さん  
(室蘭市 星蘭中学校3年)



この度は最高位の栄誉ある賞をいただき、大変感謝しております。ありがとうございます。

この作文を書く事によって、この夏休みの活動と自分の未来を見つめなおすよい機会になりました。そして、このようなワクワクするような経験をさせていただいたボランティアの方々をはじめ、港で出会った方々、この活動を助けてくれた母に感謝しています。

もっと室蘭のことや、日本文化を伝えるため、語学を勉強し、明るい未来に向かっていきたいと思っています。

入賞作品集「未来へ」



表彰式終了後、入賞作品や表彰式風景をとりまとめた作品集を発行しています。

北洋銀行 presents

札幌交響楽団によるクラシックコンサート

今年も大盛況!

北海道の文化がますます盛んになるよう、平成24年から札幌交響楽団によるクラシックコンサートを年に2回開催しています。これまでに、延べ9,500名のお客さまを無料でご招待し、名曲の数々をお楽しみいただきました。地域社会への貢献の1つとして、本格的なクラシック音楽を身近に感じていただき、少しでも地域の芸術文化振興のお役に立てるよう積極的に取り組んでいます。



札幌コンサートホールKitaraでのクラシックコンサート

開催日	開催地	会場
平成24年12月19日	札幌市	札幌コンサートホール Kitara
平成25年 2月21日	深川市	深川市文化交流センター み・らい
平成25年 7月31日	室蘭市	室蘭市文化センター
平成25年12月25日	札幌市	札幌コンサートホール Kitara
平成26年 7月 9日	帯広市	帯広市民文化ホール
平成26年12月18日	札幌市	札幌コンサートホール Kitara
平成27年 7月15日	小樽市	小樽市民会館

お客さまの 声

平成26年12月18日開催  
第六回クラシックコンサート  
札幌コンサートホールKitara フリーコメントより

様々な声が寄せられ、来場者の9割の方から「大変良い」「良い」とのお答えをいただきました。

音楽を通して企業の社会的活動を行っていただけるのは素晴らしいことだと思います。

このコンサートは毎年楽しみにしています。

北洋銀行が身近に感じられました♪

道民の銀行が行うので親しみが湧きます。

一企業が自らの分野だけでなく他の分野に関心を持つのは、とてもよいことだと考えます。共に北海道で頑張っていきましょう!

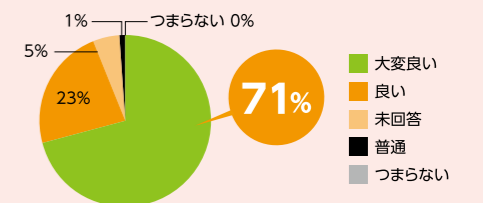
生活にゆとりとるおいを持たせるのが、金融機関の幅広い社会貢献だと思う。

良質なCSRプランだと思う。

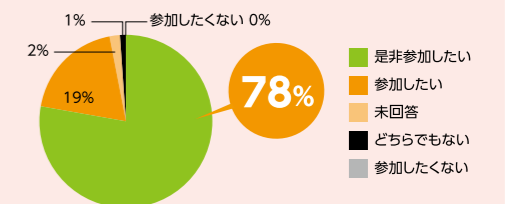
市民に対し感謝の気持ちが伝わる。

今後も継続することを切望します。

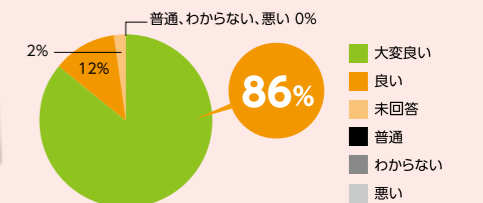
コンサートはいかがでしたか?



今後もこのようなコンサートがあれば、参加したいですか?



北洋銀行がクラシックコンサートを開催することについてどう思いますか?





豊かな心と、輝く瞳をはぐくむ。

## スポーツ応援事業

北海道との包括連携協定の一環として、平成27年4月より、「子ども」並びに「障がい児者」に重点を置いたスポーツ応援事業を開始しました。道内のスポーツの発展と地域におけるスポーツの推進を目的

子どものスポーツ

公益財団法人北海道体育協会のご協力のもと、スポーツ教室を開催します。地元のスポーツ少年団やスポーツクラブとも連携し、5種目10回以上のスポーツを体験できるものとします。当協会を通じ、各市町村体育協会へ助成させていただきます。



スポーツ応援事業ポスター

障がい児者スポーツ

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会のご協力のもと、障がい児者スポーツの活動団体から公募を募り、障がい児者スポーツの振興と向上に資する大会・教室等の活動のなかより選定し、助成金を交付させていただきます。

的としています。更に、子どものスポーツでは体力向上と地域活性化、障がい児者スポーツでは、障がいに対する理解深耕と障がい児者の社会参加の促進に寄与したいと考えています。

### スタッフからの一言

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会 事務局長 羽田 慎哉



本道の障がい児者スポーツの普及振興を推進するためには、活動の母体であるスポーツ団体の活性化が何よりも重要ですが、安定的な活動資金を得ている団体は多くありません。当協会では、この助成事業を通じて、スポーツ団体の機能強化を図り、選手の育成や競技力の向上を目指すと共に、全道の障がい児者が主体的にスポーツに参加する機会の充実や環境の整備に、今後も努めて参りたいと考えております。

## 各種金融教育の実施



職場見学(大谷地支店)



金融経済体験学習プログラム



夏休み子ども体験アカデミー2014

北海道の未来を担う子どもたちのための出張授業や本支店見学、大学での講座をはじめ各種金融教育を行っています。平成26年度は、小学生から大学生まで629名の参加があり、お金の大切さや仕組み、金融機関の役割等を学んでもらいました。また、高校生の職場体験学習等を受け入れ、道内の学生に実社会を経験する機会を提供しています。更に、小学生を対象とした職業イベントとして「夏休み子ども体験アカデミー」や「ママナビKids職業体験」にも出展しています。

実施年度	実施回数	参加人数
平成21年度	21	278
平成22年度	33	274
平成23年度	26	315
平成24年度	28	498
平成25年度	41	653
平成26年度	43	629

## 国際教育音楽祭「PMF」

世界の若手音楽家の育成を目的としたPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)に協賛しています。平成2年から毎年開催されている世界三大教育音楽祭の1つで、オーディションで選ばれた若手音楽家たちが札幌に集い、教授陣の指導のもと、夏の約1カ月間に渡って札幌を中心とした各所で公演やセミナーを繰り広げています。当行では、平成24年から音楽祭の期間中にミニコンサートを開催。お取引先の皆さまを当行本店にあるセミナーホールにご招待し、アカデミー生が奏でる音色をお楽しみいただいています。



写真提供:(公財)PMF組織委員会



北洋大通センターでのミニコンサート

## 経営について



働きやすく、信頼される組織を目指して。

職員が能力や個性を十分に発揮し、それぞれの暮らしを充実できるように様々なサポートを行っています。将来のキャリアはもちろん、ライフプランをしっかりと描ける働きやすい職場、働きがいのある企業を目指して。

## 女性活躍支援室の設置

職員全体の約4割を占める女性職員の一層の活躍を支援するため、女性活躍支援室を人事部内に設置しています。ここでは、女性職員のキャリア・アップやライフ・プランについての相談や育児休業中の職員の職場復帰の支援を行っています。また、「子育て」や「介護」についての相談・アドバイスを全店の職員で情報交換できるコミュニティの場を提供する等、職場も協力できる組織、風土づくりを目指しています。



育児休業者意見交換会

### 「子育てサポート企業」の認定

当行は、平成19年に道内企業で初めて次世代法に基づく「子育てサポート企業」の認定を受け、厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」の使用許可を得ています。また、平成27年6月には3回目を取得しており、継続的に子育て支援に取り組んでいます。



くるみんマーク

### 女性管理職登用の促進

銀行全体の活力増加につなげるため、女性行員の活躍を積極的に推進しています。キャリアアップ支援として、女性の融資・渉外担当者の養成研修やキャリア意識向上を目指した女性向け研修も行っています。当行の中期経営計画でも人材育成として「活躍の場の拡大」掲げており、今後も女性管理職の登用促進を更に進めていきます。

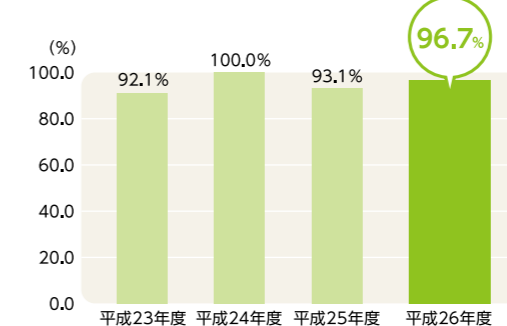
### キャリアアップ支援

融資・渉外担当者養成研修

キャリア意識向上女性向け研修

### 高い女性の育児休業取得率

女性の活躍推進では辞めずに長く働くことが大前提となります。出産・子育ての壁を乗り越えるための様々な制度やサポートがあります。また、パートタイマーを含めた女性の「育児休業取得率」はほぼ100%に近く、取得しやすい環境となっています。



### 女性管理職からの一言

資産運用推進部 担当部長 片山 美幸



管理職になって10年、支店長時代より多くの先輩の方々や部下、そしてお客さまに助けられて今日を迎えました。昨今、女性管理職を積極的に登用する流れで、当行も多くの女性管理職が輩出されています。肩に力を入れる事なく「私らしく生きる・やれることは何でもやってみる」ことで少しでも彼女達のロールモデルとなれればと思っています。今後も現場での経験やお客さま対応で培ったものを、営業店のために活かせる事ができればと考えています。

### 育児休業取得者からの一言

千歳中央支店 三國 沙友里



育児休業取得にあたって最も感じたのは、職場の方々の支えの大きさです。妊娠中は職場の皆さんに体調を気遣っていただき、温かい環境の中で仕事ことができました。また、育休中は復帰に向けて先輩や同期から会社の情報をこまめに聞くようにしていました。復帰が近づき育児との両立に不安もありますが、また精一杯働きたいと思っています。





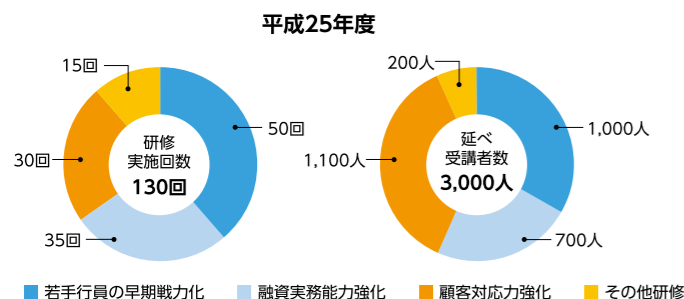
働きやすく、信頼される組織を目指して。

## 目 人材育成の取り組み

経営理念である「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」の職員としてふさわしい知識水準をもち、お客さまの立場に立った視点で質の高いサービスを提供できる人材を育成するため、職能別、階層別の各種研修を行っています。また、「能力開発チャレンジ制度」を設け、職員

が自己啓発に取り組める環境づくりや支援を行い、融資・中小企業診断士養成・外為等の各種トレーニー制度による職員のスキルアップを常に図っています。そして、職員の勤務成績と職務遂行能力等を公正に評価し、適切な指導育成を図る人事考課制度を設けています。

研修実績



## 目 ワークライフバランスへの取り組み

### 仕事と生活の調和

働きがいのある職場づくりのためにワークライフバランスの実現に取り組み、仕事と家庭の両立を積極的に支援する制度を導入しています。1週間の連続休暇や勤続年数に応じたリフレッシュ休暇による有給休暇の取得を促すほか、毎週水曜日の定時退行日や年2回の定時退行週間を実施しています。

このような積極的な取り組みにより、平成26年10月に仕事と家庭の両立支援に積極的な取り組みを行い効果が出ている企業を表彰する厚生労働省の「平成26年度均等・両立推進企業ファミリー・フレンドリー企業部門」で「北海道労働局長優良賞」を受賞しました。



企業内託児所「ほっくーとなかまたち」

企業内託児所	平成18年4月開設、職員・パートタイマーが利用
育児休業	子が1歳6ヶ月に達するまで
育児休暇制度	配偶者の産後8週間以内に10日間取得可能
育児短時間勤務制度	小学校6年生までの子を養育する職員、6時間勤務と7時間勤務の選択制
時間外労働の免除	小学校6年生までの子を養育する職員
子の看護休暇	有給休暇で対応
退職行員再雇用制度	子育て等が落ち着いた元行員を再雇用する制度
介護休業	要介護状態にある家族の介護を行っている職員
旧姓の使用	多様化する働き方を支援

## 目 障がい者雇用への取り組み

障がいのある方が地域の中で安心して暮らせる社会の実現と、障がいのある方の社会的自立を支援するために障がい者雇用に取り組んでいます。雇用状況は、平成27年3月現在で法定雇用率を達成しています。今後も個々人の能力や適性に応じた働く場を拡大する等して障がい者の雇用に積極的に取り組んでいきます。

## 目 メンタルヘルスケア

複雑化する現代社会において、こころに悩みを抱える人が増えていることを受け、平成14年1月に専門カウンセラーとの1対1の電話・メール・面接によるカウンセリングを利用できる「メンタルヘルス・ケア制度」を設け、職員と家族の「こころの健康」を保つお手伝いをしています。また、管理監督者のラインケアの実現に向けて、役付者を対象とした「職場のメンタルヘルスセミナー」等を実施しています。

## 目 ライフスタイルに合わせた高齢者の再雇用

当行では「高齢者雇用安定法」の改正を受け、シニア職員再雇用制度により希望者全員が満65歳まで引き続き勤務をしています。現在250名以上が本制度を活用し、後進の指導のほか、長年の経験を生かし各専門分野で活躍しています。また、再雇用にあたっては、勤務日数・勤務時間等多様なメニューを用意しており、各自がライフスタイルに応じた働き方を選択しています。

## 積極的なIR活動を通じた株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築

株主・投資家の皆さまと長く揺るぎない信頼関係を築くため、適時・適所な情報開示に加え会社説明会の積極的な開催等コミュニケーションの機会をより拡充することで、当行への理解を深めていただき、常に適切な評価を獲得できるようIR活動の強化に努めています。

### 札幌北洋グループのディスクロージャーポリシー (情報開示に関する基本的な考え方)

- 1 当行は、金融商品取引法、会社法、銀行法及び金融商品取引所の規則その他の関係法令等を遵守し、適時適切に情報の開示を行います。
- 2 当行は、お客さま・株主・投資家等が当行の実態を正確に認識し判断できるよう、財務内容、経営方針、事業戦略等に関して真実かつ正確な情報開示を行い、積極的なディスクロージャー活動に努めます。
- 3 当行は、開示した会社情報については開示後速やかに、また、アナリスト・機関投資家向けのインフォメーション・ミーティング資料についても原則同日中に当行ホームページに掲載する等、公平な情報開示に努めます。
- 4 当行は、会社情報の開示にあたって金融商品取引所の定める方法のほか、インターネット、各種印刷物等の様々な方法を活用し、より広くわかりやすい開示に努めます。
- 5 当行は、情報開示を適切に行うための体制の整備・充実に努めます。

## 目 機関投資家向け説明会

毎年6月と12月に機関投資家向け説明会を開催しています。説明会では、頭取より、直近の決算内容や経営戦略と配当方針等を説明した後、投資家の皆さまからのご質問を受け付けているほか、説明会で使用した資料はホームページで公表しています。また、機関投資家の皆さまのご要望に応じて、小規模説明会や個別ミーティングも随時開催しています。

主なIR活動

IR活動	平成26年度	
	回数	場所
株主総会	1	札幌
機関投資家向け説明会(ラージミーティング)	2	東京
機関投資家向け小規模説明会(スモールミーティング)	4	札幌、東京
機関投資家向け個別ミーティング	25	札幌、東京
個人投資家向け会社説明会	4	札幌、函館、旭川、帯広

## 目 IRツール

株主・投資家の皆さまに、より充実した情報をご提供していくため、IRツールの拡充に努めています。



## 目 個人投資家向け会社説明会

平成26年11月に札幌、平成27年2月に函館・旭川・帯広の各都市で個人投資家向け会社説明会を開催し、合計で905名の皆さまにご来場いただきました。説明会では、頭取より、北洋銀行の地域金融機関としての位置づけや今後の事業展開、CSRへの取り組み状況等について説明したほか、皆さまからのご質問を受け付け、双方向のコミュニケーションを図っています。今後も説明会等の機会を通じて、個人投資家の皆さまに積極的に情報を発信してまいります。



個人投資家向け会社説明会



## コーポレートガバナンスの強化に向けて

当行は、経営体制として監査役会設置会社を選択しており、現体制の中でより効果的なガバナンスの強化に努めています。

### 目 社外取締役の選任

経営の透明性をより向上させるため、社外取締役3名(うち女性2名)を選任しています。社外取締役が社外監査役を含む監査役会と連携することで、取締役の業務執行をモニタリングする体制を構築しています。

### 目 グループ報酬委員会の設置

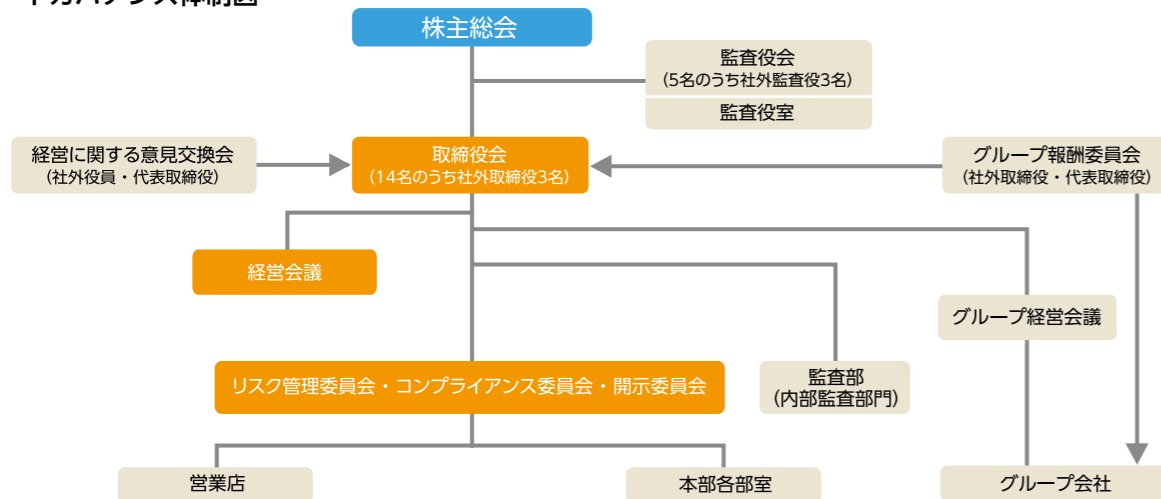
取締役への報酬の決定に係る客観性と透明性を保ち、グループ全体の報酬水準を調整すること等を目的に、社外取締役等で構成するグループ報酬委員会を設置しています。

### 目 独立役員確保

一般株主の利益に配慮した公平で公正な意志決定プロセスを保つよう努めています。東京証券取引所等の規程に基づいて設置が義務づけられた独立役員<sup>※</sup>については、東京証券取引所のガイドライン等も踏まえ、社外取締役3名、社外監査役3名の計6名を独立役員として各証券取引所に届出しています。

※「一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役又は社外監査役」と定義され、東京証券取引所ほか各証券取引所の規程に基づき、1名以上の確保と開示が上場会社に義務付けられています。また、取締役である独立役員を少なくとも1名以上確保するよう努めなければなりません。

### コーポレートガバナンス体制図



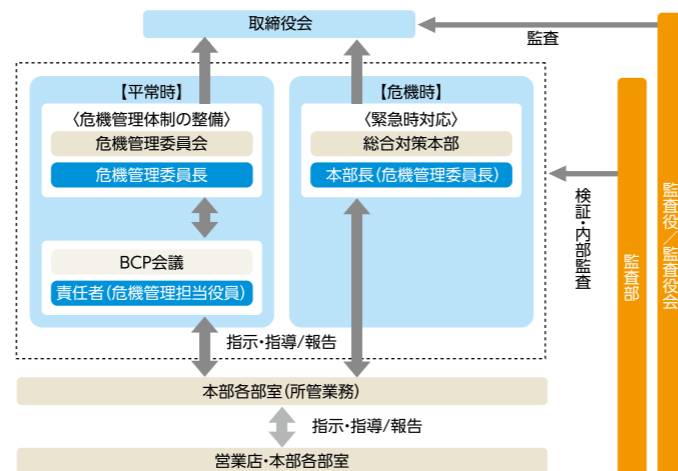
## 危機管理体制

### と緊急時業務継続計画に関して

地域金融機関としては、万が一、災害等不測の事態が発生した場合でも、その影響を最小限に留め、業務を継続し、もしくは早期に業務を再開する責務があります。

当グループでは、「危機管理規程」等を定め、体制整備に努めると共に、「業務継続計画」として「新型インフルエンザの発生」及び札幌市直下型の「大地震災害の発生」を想定し、「緊急時対応要領」等のマニュアルを作成した上で、定期的に訓練を実施しています。

### 危機管理体制図



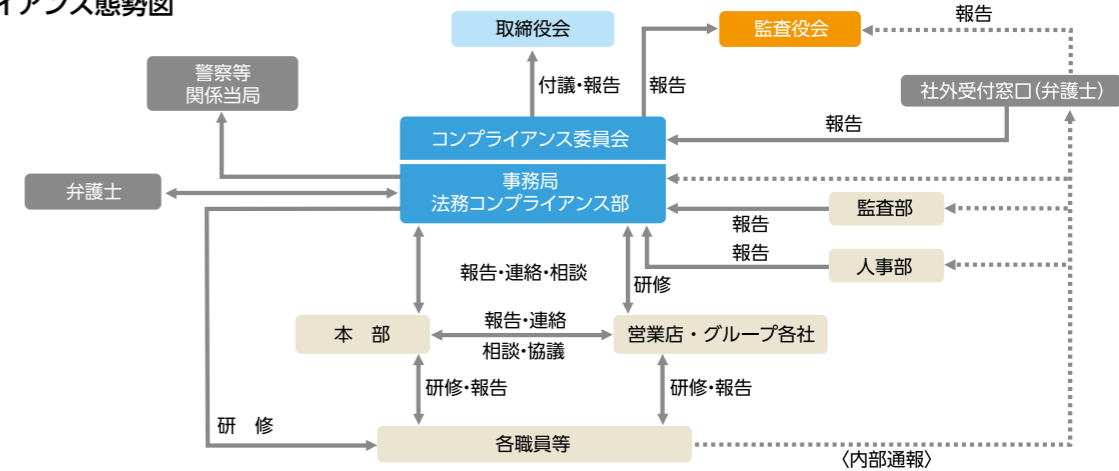
## コンプライアンスと顧客保護等の態勢

当行は、コンプライアンスとお客さまの保護を経営の最重要課題の1つとして、法令や社内規則等に従い、人倫を守る組織運営と企業風土の醸成を大前提としています。

### 目 コンプライアンス態勢

法令等を遵守する規程によって、コンプライアンス態勢と行動規範の基本方針等を定め、態勢確立のため、法務コンプライアンス部を事務局としたコンプライアンス委員会を設けています。委員会では遵守すべき法令等の解説や違法行為を発見した場合の対処方法等を具体的に示したコンプライアンス・マニュアルを全従業員等に配布しています。また、態勢強化のためのコンプライアンス・プログラムを定め、見直しを行っています。本部各部署、各営業店にも責任者・担当者を配置し、コンプライアンスについての状況把握をすると共に、方針の徹底・浸透を進めています。また、不正行為やコンプライアンス上の問題をいち早く把握し、正すために内部通報制度を設けています。

### コンプライアンス態勢図



### 目 職員等への徹底方法

コンプライアンス徹底のため各職場でコンプライアンス担当者を中心に、コンプライアンス・プログラムに基づく研修を繰り返し行っています。また、コンプライアンス責任者や担当者、新任役職者等を対象に、階層別のコンプライアンス集合研修を継続して行い、コンプライアンス態勢を強化しています。

### 目 反社会的勢力への対応

銀行のもつ公共的使命と社会的責任を認識し、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力への資金提供の拒絶、不当要求・不当介入の排除等、反社会的勢力との取り引きを含めた一切の関係を断つ態勢の整備に努めています。「反社会的勢力への対応に係る基本方針」に従い、各種取引に「暴力団排除条項」を導入しています。また、一元管理部署を中心に警察や弁護士等と連携し、反社会的勢力の排除を図っています。

### 目 個人情報保護・お客さま保護等

情報資産を有効に活用し、重要情報を適切に保護するための「セキュリティポリシー兼セキュリティスタンダード」を定め、適時適切に遵守状況のチェックを行っています。「個人情報の保護に関する法律」に従って定めた「個人情報保護宣言(プライバシーポリシー)」を公表し、情報の漏えい等を防ぐための態勢整備や開示等の請求の受付態勢を整える等、個人情報保護のための安全管理措置も整備しています。

また、「金融商品の販売等に関する法律」に基づいて、お客さまの利便性向上や保護を目的とした「お客さま保護等管理方針」や、お客さまに適切な金融商品を提供するための「勧誘方針」等を定め、適正

な業務運営によってお客さまからの信頼を高めるよう努めています。お客さまの利益が不当に害されることを防ぐために「利益相反管理ポリシー」「利益相反管理規程」を定め、利益相反に該当する取引を適切に管理する態勢を整えています。

更に、「中小企業者等に対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律」(平成21年12月～25年3月施行)の主旨に基づいて「金融円滑化基本方針」等を定め、お客さまに安心してご相談いただけるよう努めています。これらの方針等は、ホームページ等で公開すると共に、役職員等に周知徹底し、お客さま保護等管理態勢を強化しています。



## リスク管理

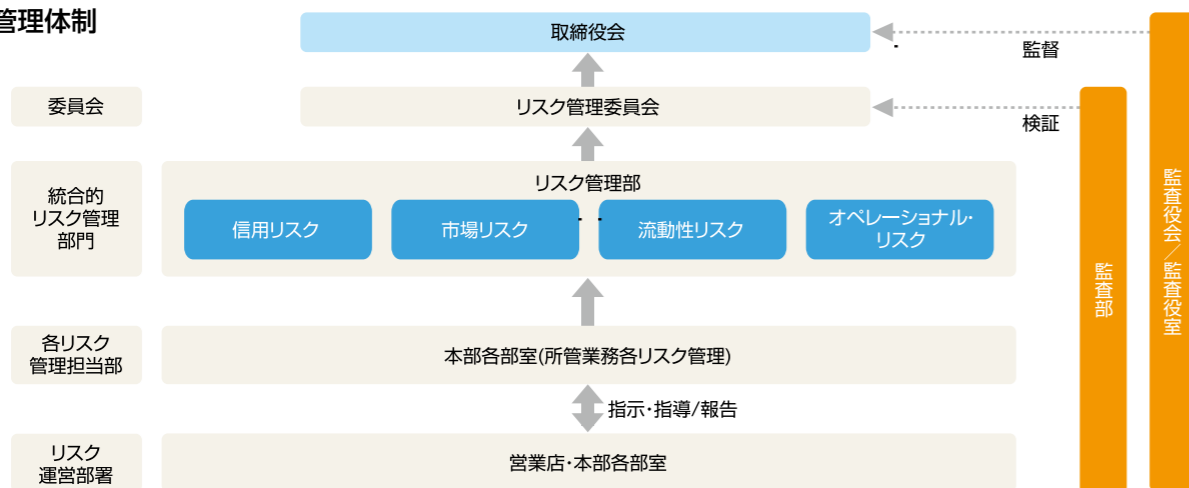
金融の自由化等の進展で、金融機関を取り巻くリスクも一段と多様化・高度化しています。当行では、これらのリスクを適正に管理・コントロールすることで、お客さまに安心してお取引いただき、また、選ばれる金融機関となるため、リスク管理体制の強化・充実に取り組んでいます。

### リスク管理体制

リスクを「信用リスク」、「市場リスク」、「流動性リスク」、「オペレーショナル・リスク」に分け、リスクの特性に応じて把握・評価し、管理しています。毎月開催される「リスク管理委員会」では、これらの主要なリスクの状況を把握し、リスクの管理方針や管理体制の整備について

協議しています。また、銀行全体のリスクを統合的に管理するために「統合的リスク管理方針」、「統合的リスク管理規程」を定め、定性面・定量面から適切に対応し、リスク全体を経営体力の範囲内に制御することで自己管理型のリスク管理を行っています。

#### リスク管理体制



### 信用リスク

「信用リスク」とは、信用供与先の財務内容の悪化や支払能力低下等で資産の価値が減少または消失し、当行が損失を被るリスクと、大口信用供与先、特定業種または特定グループ等への貸出資産等の偏在・集中から生じるリスクです。

当行では、審査部門の独立性の確保と審査機能の充実を図り、行内・行外研修等を活用して審査能力の向上に努めているほか、信用供与先や案件の債務履行の確実性を表す内部格付制度の拡充に努めています。

「リスク管理委員会」と「信用リスク管理検討会」では、グループの与信全体についてのポートフォリオを適切に管理し、グループ全体の信用リスクの把握と検証を行っています。

### 市場リスク

「市場リスク」とは、金利や価格、外国為替等の相場変動によって保有する資産の価値が減少し、損失を被るリスクです。

当行では、ローリスク運用、中長期分散投資、市場流動性の重視等の基本方針を定め、「リスク管理委員会」においてリスク状況の把握や適切なリスクコントロールを行っています。

また、牽制機能を確保するため、取引を執行する部署及び決裁等の事務を行う部署から独立したリスク管理部署である市場リスク管理室を設置し、相互牽制を行っています。

### 流動性リスク

「流動性リスク」とは、予期しない資金の流出で、必要な資金確保が困難となるリスクです。当行は、「流動性リスク管理規程」を定め、流動性リスクに問題がないかをモニタリング等により適切に管理しています。

また、市場環境や当行の資金繰り状況が大きく変化した場合は直ぐに経営陣に報告し、必要な対策等について速やかに意思決定を行うほか、万一流動性リスクが顕在化した場合に備えたマニュアルを整備し、実効性を確保するための定期的な訓練を行っています。

### オペレーショナル・リスク

「オペレーショナル・リスク」とは、業務の過程や役職員の活動、システムの不適切等によって損失が発生するリスクです。当行は「オペレーショナル・リスク管理規程」を定め、そのリスク特性に応じて管理しています。

また、平成19年3月基準で金融庁より承認を受け、「粗利益配分手法」を採用し、オペレーショナル・リスク管理の高度化に取り組んでいます。

## CSR REPORT 2015に対する第三者意見

本レポートは、札幌北洋グループのCSRレポート、さらに経営レポートとしての側面をあわせ持っています。地域のメインバンクとしての責務を果たす札幌北洋グループの多様なステーク・ホルダーを考えると、誰に、どの視点から、どのような内容を伝えなければならないのかは大変難しい選択になります。この困難な選択の中、本レポートは多様な課題を達成するように作成されていますが、本レポートを、最も重要なステーク・ホルダーである「お客様の視点」から読み解いて見ることにします。本レポートは、札幌北洋グループの真摯な語りをお客様に正面から伝え、評価して頂く貴重な場であると思われるからです。

札幌北洋グループは、疲弊下降傾向にある道内経済を、「地方創

#### ● 評価できる点

札幌北洋グループのCSR活動取組領域は、「環境保全・医療福祉・教育文化」という3大重点領域が存在しており、その活動プログラムは実に多岐に渡り、充実した成果をあげているのが特徴です。3大領域の多様性とバランス、確実な実践成果は、道内企業屈指の実績と評価して間違いありません。それぞれの個別事業の多様性が全体の厚みを生み出し、金融という半公的機関の信頼性向上に大いに貢献している様子が伺えます。

特に目を引くのは、本業に近い領域で展開しているCSR活動です。既に道民にはすっかり定着した「ほっくー基金」を筆頭に、北洋エコポンド、飛翔NEO、高度医療ローン、診療報酬債権等、本業と重点CSR領域が重なった本行の取り組みは年々実績を確実に向上させており、CSRと持続可能性が融合した経営のお手本として、頼もしい

#### ● 今後期待する点

道内屈指のCSR活動実績を有している札幌北洋グループにとっても、更なる高次の到達点が存在します。未だ道内企業においては未到達の理想像ともいえる目標です。それは、「CSRへの情熱が、全行員、お客様全員と共有されているのだろうか?」という問いに集約されます。

札幌北洋グループのような巨大組織においては、「CSRはCSR担当部署の仕事」という考え方が発生しがちです。素晴らしいCSRの実績も、担当部署や一部の情熱的行員によってのみ支えられているのではなからうかという心配もあります。経営のミッションや目標が、一人ひとりの行員に共有・実践されるべきであると同様に、企業のCSRマインドや目標も、全行員に共有され、浸透していることが求められます。札幌北洋グループは、この難しい目標に対して、現時点でどの程度達成したのでしょうか。また、CSR課題は一方的に企業が行うのではなく、地域のステーク・ホルダーとも共有化し、共同で

生」というキャッチフレーズのもと、地域活性化を自らの経営課題として真剣に取り組んでいる道内企業の代表であります。この方針を正面から掲げた本グループの中期経営計画「挑戦」も2年目を迎え、本業の地域密着型金融と本行の強みを活かした北海道の可能性の追求は着実に成果を上げ始め、多彩なCSR活動と一体化しています。本レポートは、お客様にとって、これらの成果を一望できるまたとないチャンスとなっています。札幌北洋グループは何を目標に、どのように汗を流し、何を達成したのか。またそれらの成果はどのような意義を有しているのか。簡単な評価とともに、その意義を以下にまとめて見たいと思います。

安心感を与えています。

毎年、確実に実績を向上させているこの3大領域に対し、今年度は「店舗と地域」という2つの課題に対し、本グループが考える顧客主義と地域振興の詳細が徹底的に語られ、充実した読み物となっています。特集と3大領域に重なる事業は見当たりませんから、特集を組めるだけの事業が存在していたことになりません。やはり、道内屈指の事業の厚みは頼もしい限りです。特に、近年活動のプレゼンスを向上させている地域振興の充実振りには驚きを隠せません。地域振興が第4番目のCSR重点領域として独立する日も近そうです。本行の強みを生かしたこの取り組みの更なる躍進を期待しております。

解決する姿勢が必要となります。これら二つの課題は、現時点でどの程度達成されているのでしょうか。

この2つの課題を紐解く鍵は、本レポートに掲載されている「担当からの一言」「スタッフからの一言」「お客様の声」に隠されています。担当者やスタッフの情熱や生の声、お客様の感動や素直な意見の共有は、行員とステーク・ホルダーの距離を縮め、共同の共通価値創造をもたらす契機となることでしょう。単なる編集上のテクニックに留まらず、より本格的に、より組織的に、行内外を巻き込んだ共通価値の創造が課題であると思われます。

CSR経営は、従業員満足度向上とともに、お客様満足度・信頼度向上をも同時に目指す経営手法です。この経営手法の到達点には地域信頼度No.1の事業者が存在し、その事業者は結果的に地銀No.1ともなり得ることでしょう。札幌北洋グループの更なる努力に期待しつつ、その日が来ることを切に待ち望んでおります。



北海道大学  
大学院メディア・コミュニケーション研究院  
国際広報論分野・教授

伊藤 直哉

#### 略歴

カトリック・ルーヴァン大学(ベルギー) 大学院博士課程修了。同大学高等哲学社会研究所研究員、北海道大学言語文化部助教授、北海道大学大学院国際広報メディア研究科助教授等を経て、2009年より現職。主な専門領域は、国際広報論、産業蓄積論(ITセクター等)、地域観光振興論等。専門を生かし、産学官連携、北海道CSR研究会等の実践活動も数多く行っている。